文化財調査報告書

平成11年度

前橋市教育委員会

第 30 集

文化財調査報告書

平成11年度

前橋市教育委員会

第 30 集

序

今年は、文化財保護法が制定されて50年という節目を迎えます。文化財保護行政は、この法により、大きく進展してまいりました。これからは、長い歴史のなかで生まれ、育まれ、今日まで守り伝えられてきた財産である文化財を保存・継承するだけではなく、公開・活用にも一層力を入れていく必要があります。

本市においても、175件に及ぶ国・県・市の指定文化財さらに国登録文化財７件を数え、先人の歩んできた足跡を確かな形でみることができます。文化財には、その時代時代の人々の労苦や努力、英知や技術そして願いや祈りが凝縮されています。これらを残し、後世に継承していくのは私たちの責務であるとともに、活用してこそ文化財保護法の精神にかなうものだと考えています。

平成11年度は、「前橋の重要文化財」というテーマで、所有者の方々のご理解・ご協力を得て、普段目にすることのできない優れた文化財を見ていただく機会を持ち、多くの市民から好評を得ることができました。また、大室公園内にある国指定史跡になっている古墳整備も進み、後二子古墳の整備が完了し、公開されるようになりました。

埋蔵文化財発掘調査においても、大きな成果をあげることができました。特に、山王廃寺跡の調査では、塑像頭部を含む像の各部が出土し、山王廃寺の解明の手がかりとなる貴重な資料が得られました。このことは、新聞や雑誌等でも取り上げられ、地域の歴史や文化財に対する関心を一層高めることになりました。

本書を通じて、このように進められてきた本市の文化財保護行政の一端をご理解いただければ幸いです。

最後に、諸事業を進めるに当たりご指導ご協力をいただいた関係各位、並びに諸機関に感謝申し上げます。

平成12年９月

前橋市教育委員会

教育長　**早　部　賢一郎**

目　次

序

Ⅰ　文化財調査委員による調査……1
　　孝顕寺調査什物目録……1
　　祝昌寺調査什物目録……2
　　樹木調査一覧……4
Ⅱ　文化財調査……5
　　刀剣の調査（第１年次）……5
Ⅲ　新指定文化財紹介……11
　　井出上神社のシイ……11
　　春日神社のケヤキ……12
Ⅳ　文化財保護事業……13
　　１　保護管理運営事業……13
　　２　整備事業……15
　　３　普及事業……16
　　４　埋蔵文化財発掘調査事業……18
　　５　遺跡台帳整備事業……29
　　６　大室公園史跡整備事業……30

あとがき

Ⅰ　文化財調査委員による調査

平成11年度の文化財調査は、平成11年10月12日に市内朝日町の孝顕寺、同13日に市内西善町の祝昌寺で行った。孝顕寺では、近年発見された松平氏（江戸時代後半の前橋城主）関係の文化財を中心に、祝昌寺では、御朱印・仏像・石造物等を中心に調査した。調査の概要は以下のとおりである。

●孝顕寺文化財調査

孝顕寺調査什物目録

カード番号	種別（名称）	材　質	法　量　cm	備　考
1	直矩公御画「菊」	絹本著色	縦70 横29	菊に蝶　「拾遺直恒筆」（落款あり） 箱書「正眼院」　軸装
2	直矩公御詠歌	紙	縦32 横８	軸装
3	直基公御筆	紙	縦29.5 横45	箱書「仏性院」 軸装
4	法華提婆品　一巻	紙 （紫金紺泥）	縦24 横10	延宝３年正月20日 折本
5	鄙詩一章	紙	縦25 横64	寛政９年　箱書「孝孫河越拾遺源直恒」 包紙「俊徳院様御筆跡」　一紙
6	般若心経　一巻	紙	縦31 横135	箱書「般若心経　御高院御寄付　正徳三年　白川（　）」 軸装
7	御過去牒　全	紙	縦27 横18	明治30年１月　家康以来歴代将軍、越前中納言秀康以来松平家藩主親家族 冊子
8	古盡観音像	絹本著色	縦45 横21	「孝顕寺常住十八世惟一新添」 軸装
9	佛涅槃尊像	著色	縦129 横111	江戸後期 軸装
10	御追悼并四十九章	紙	縦22.2 横17	霊鷲院殿（基矩）を追悼する俳句 作者山口換鵝　冊子
11	御影　政勝公号大雲藤長	絹本著色	縦65 横35	自讃　「天文十八年八月二十二日自筆自讃自画自影大雲藤長左術閣」　軸装
12	佛祖正傳菩薩戒作法（先請戒）（教授戒文）	紙	縦23.5 横９	宝暦12年11月５日 折本（二冊）
13	松平大和守孝顕寺宛書信	紙	縦20 横50	江戸時代（年不明）　二月二十七日 軸装
14	当時開山晋嶺尖堯大和尚真影	紙本 著色	縦100 横51	孝顕寺初代　江戸時代 軸装
15	孝顕寺２代中興開山萬嶺賀竹大和尚	絹本著色	縦108 横50	孝顕寺２代　江戸時代「寛文六年仲冬初六島」 軸装
16	開山和尚真像	紙本著色	縦107 横58	孝顕寺３代　江戸時代 軸装

この他、観音堂（位牌堂）に木造観音立像（室町時代）、本堂に不動明王座像（江戸時代）があるが、今回は調査に至らなかった。

●祝昌寺文化財調査

祝昌寺調査什物目録

カード番号	種別（名称）	材　質	法　量　cm	備　考
1	棟　札	木	縦約70 下幅12	寛保元年４月「祝昌寺９代」「大工女屋村女屋弥右衛門充房」
2	本堂屋根替札	木 （松板）	縦14.5 横91	明治25年３月
3	御　朱　印	紙	縦45 横62.5	慶安２年８月24日（家光朱印） 包紙「上州根岸村祝昌寺　大猷院　21石」
4	御　朱　印	紙	縦46 横64.5	貞享２年６月11日（綱吉朱印） 包紙「上野国那波郡根岸村祝昌寺　常憲院　21石」
5	御　朱　印	紙	縦46 横64	天明８年９月11日（家斉朱印）
6	御　朱　印	紙	縦45.5 横65	蔓延元年９月11日（家茂朱印）
7	御　朱　印	紙	縦45.5 横64	安政２年９月11日（家定朱印）
8	御　朱　印	紙	縦46.5 横64	天保10年９月11日（家慶朱印）
9	御　朱　印	紙	縦47 横64.5	享保３年７月11日（吉宗朱印）
10	御　朱　印	紙	縦46.5 横64	延享４年８月11日（家重朱印）
11	御　朱　印	紙	縦46.5 横64.5	宝暦12年８月11日（家治朱印）
12	御朱印箱	木 （金箔）	（蓋） 縦57.2 横15.3 高6.8	蓋裏書（朱）「慶安弐年己丑八月二十四日　格州越叟代頂戴之」
13	開山明巌察大和尚位牌	木 （金箔）	高52 幅17	（表）前永平橋林十一世當寺開山明巌察大和尚禅師 （背）元和四戊午年八月十三日
14	三世格翁逸大和尚位牌	木 （黒漆）	高42 幅14	（表）前永平當寺三世格翁逸大和尚禅師 （背）貞享元甲子年九月十五日
15	善光寺三尊本尊	金銅	高47 幅12.5	仏手後補木彫　台座銅製（臼坐） 補強心棒（墨書）「此本尊御手造継之事　大胡養林寺五代選誉　元禄七戌年八月朔日　根岸村祝昌寺」 南北朝時代の作

カード番号	種別（名称）	材　　質	法　量　cm	備　　考
16	観音菩薩像	金銅	高27.5 幅８	善光寺三尊脇侍　　梵挟印 台座裏（墨書）「如来御手二菩薩台座　大胡養林寺五代　選誉上人作」 台座（墨書）「元禄七戌八月彼岸」（補修銘）南北朝時代の作
17	勢至菩薩立像	金銅	高22 幅6.5	善光寺三尊脇侍　　梵挟印 宝冠に水瓶刻出 南北朝時代の作
18	稲荷御神体　八角柱	木製 （布張）	高14.5 幅５	８角柱に「正一位稲荷大明神」（墨書） 台座裏（墨書）「奉安鎮　文化十四年九月吉日　城州紀伊郡稲荷本宮祠官　正四位下奈宿根忠絢」一緒に御（守）符（狐にまたがる稲荷師の絵）あり。

祝昌寺調査石造物一覧表

カード番号	種別（名称）	法　量　cm	備　　考
1	宝篋印塔	高180	多段式　　摺墨の墓 「永正八年辛未正月十八日」
2	筆弟中（筆子塚）	高173 幅49	正面「静正院好学□道居士」 （左側面）「狩野類蔵　享年六十有八歳　次子狩野竹蔵」 （右側面）「維者　明治二十七年甲午年十二月十七日逝」
3	双体道祖神	高61 幅33	「明和三丙戌年□八月吉祥日」
4	馬頭観世音	高145（像高43） 幅30	「文政四辛巳年三月吉祥日　當邑中」
5	地蔵菩薩像	高130（像高32） 幅30	「文政四辛巳年三月吉祥日」
6	庚申塔	高106 幅35	二猿二鶏 （右）「元和八年九月四日」 （中）「奉□□諸願成就処」
7	庚申塔	高78 幅28	「明和八辛卯天九月吉祥日」

●樹木調査

市内にある保護・保存の対象となるような樹木についての基礎的データを整備するために調査を、平成11年10月21日に実施した。調査の概要は以下のとおりである。

樹木調査結果概要一覧

No.	名称（通称）	所在地	樹高	目通し	樹齢	備考
1	桃井小学校のイチョウ	大手町二丁目16　桃井小学校	19.0m	3.1m	約200年	幹の途中が一度折れている。
2	(旧)教育資料館のケヤキ	大手町二丁目16　(旧)教育資料館	23.0m	3.65m	－	東は道路側に枝張り
3	前橋公園のニレ①	大手町三丁目16　前橋中央児童遊園	23.0m	3.7m	約250年	ハルニレ
	前橋公園のニレ②	大手町三丁目16　前橋中央児童遊園	16.5m	3.4m	約250年	ハルニレ
	前橋公園のニレ③	大手町三丁目16　前橋中央児童遊園	21.0m	3.0m	約250年	ハルニレ
4	県民会館のムクノキ	日吉町一丁目10　県民会館	17.5m	4.4m	約150年	南側の道路枝張り分は伐採
5	観民稲荷神社のクロマツ	岩神町二丁目21　観民稲荷神社	23.0m	3.6m	250～300年	こぶ病あり。西側の道路枝張り分は伐採。
6	群馬中央総合病院のケヤキ	紅雲町一丁目7　群馬中央総合病院	29.0m	4.1m	約350年	町中では珍しい大きな木
7	須賀の園のフジ①	西片貝町五丁目22　須賀の園	2.0m	幹周0.95m	約200年	棚には病気はない 一部の木には根頭癌腫病があるが重いものではない。 開花期に樹勢等をもう一度調査する。
	須賀の園のフジ②	西片貝町五丁目22　須賀の園	2.0m	幹周1.35m	約200年	
	須賀の園のフジ③	西片貝町五丁目22　須賀の園	2.0m	幹周1.25m	約200年	
	須賀の園のフジ④	西片貝町五丁目22　須賀の園	2.0m	幹周0.95m	約200年	
	須賀の園のフジ⑤	西片貝町五丁目22　須賀の園	2.0m	幹周 0.9m	約200年	
	須賀の園のフジ⑥	西片貝町五丁目22　須賀の園	2.0m	幹周 0.9m	約200年	

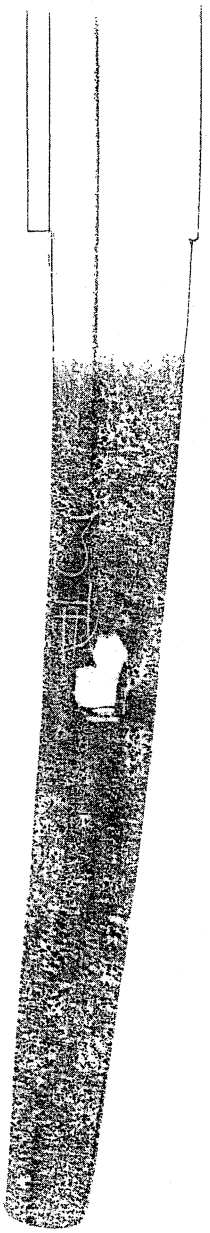
II　文化財調査

本年度から、石井昌重氏のご遺族から寄贈された刀剣の調査の第１年次として、東京国立博物館金工室長　原田一敏氏によって調査が進められた。調査は平成12年１月27日・28日に行われ、その内容は以下のとおりである。

●刀剣の調査

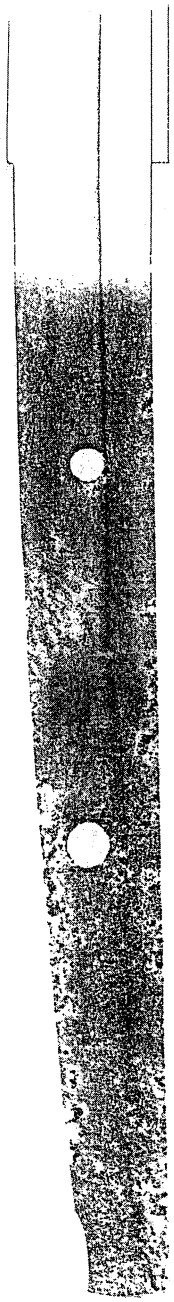
太刀　銘　了戒

法量　（単位cm）
　　刃長　77.0　反り　2.6
　　元幅　2.6　先幅　1.7
　　元重　0.75　先重　0.4
形状　鎬造、庵棟、中鋒、反り高くつく。
鍛　小板目に杢目交じり、総体に流れ肌目立ち、地沸つく。
刃文　小互の目に小丁子交じり、総体に小足よく入り、小沸つく。
帽子　表のたれ込み、裏直にともに小丸に返る。
茎　生、先栗尻、鑢目浅い勝手下り、目釘孔１。
説明　了戒は山城来派の刀工で、国俊あるいは来国俊の子と伝える。作品には永仁６年（1298）、嘉元２年（1304）などの年号を記した作があり、鎌倉時代末期に活躍したことが知られる。この太刀の銘は通常の了戒とは少し書体が異なっており、さらに検討すべき余地がある。



刀　無銘　当麻

法量　（単位cm）
　　刃長　69.8　反り　1.8
　　元幅　2.6　先幅　1.8
　　元重　0.5　先重　0.4
　　鋒長　3.4
形状　鎬造、庵棟、鎬やや高く、中鋒、大磨上げで反りが浅い。
鍛　大板目総体に流れて肌立ち、地景入り、地沸つく。
刃文　中直刃調浅くのたれて、総体にほつれ、喰違刃交じり、沸つき、砂流ししきりにかかり、金筋入る。
帽子　直に尖りごころに返り、先強く掃きかける。
茎　大磨上、先浅い栗尻、鑢目切、目釘孔２。
説明　板目が大きく流れた鍛え、ほつれ、喰違刃が混じった直刃の刃文などから、大和当麻派の作と見られる。当麻派は大和（奈良県）葛城の当麻に住した刀工の一派で、国行を祖として、鎌倉時代から室町時代初期まで栄えた。この刀は形状から鎌倉時代末期から南北朝初期にかけての作と考えられる。

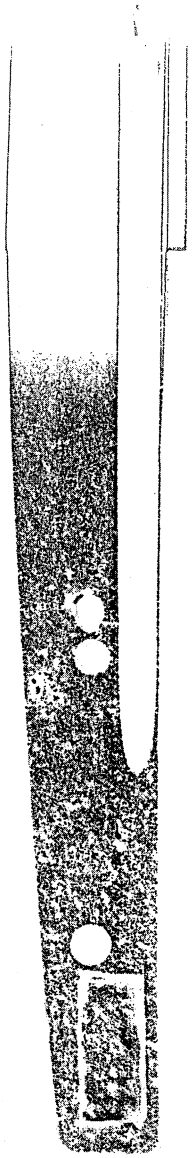


太刀　無銘　波平

法量　（単位cm）
　　刃長　83.9　反り　2.2
　　元幅　3.0　先幅　2.1
　　元重　0.6　先重　0.4
形状　鎬造、庵棟、中鋒、反り高くつく。
鍛　地の底小板目つみ、表面は総体に流れた大肌が目立ち、地沸つき、地景入り、白気映り立つ。
刃文　細直刃、匂口うるみごころとなり、小沸つく。
帽子　直に小丸に返る。
茎　生、先栗尻、鑢目不明、目釘孔１、孔上棟寄に銘を消した跡がある。
説明　無銘であるが、板目の流れた鍛え、匂口のうるんだ直刃の刃文などから薩摩国（鹿児島県）波平（なみのひら）派の作と考えられる。波平鍛冶は平安時代末期の行平を祖として、江戸時代まで系統が続いている。本作の製作時期は南北朝から室町時代初期と見られる。

刀　無銘　直江志津

法量　（単位cm）
　　刃長　65.3　反り　1.2
　　元幅　2.8　先幅　2.0
　　元重　0.6　先重　0.4
　　鋒長　4.5
形状　鎬造、庵棟、中鋒延びごころとなり、反りが浅い。
鍛　板目肌、地沸つき、地景入る。
刃文　小のたれに互の目、尖り刃など交じり、足入り、匂い深く沸よくつく。
帽子　のたれこみ先尖りごころに返り、掃きかける。
彫物　表裏とも棒樋掻流し。
茎　大磨上、先切、鑢目大筋違、目釘孔３、額銘の跡がある。
説明　幅が広く、鋒の延びた造り込みから、南北朝時代の作であり、のたれに尖り刃が交じり沸のよくついた刃文から美濃（岐阜県）の直江志津の作と見られる。直江志津は、大和から美濃に移り、美濃鍛冶の祖となった志津三郎兼氏の系統の刀工を指すもので、志津（南濃町）から直江（養老町）へ移ったため、直江志津と呼ばれている。

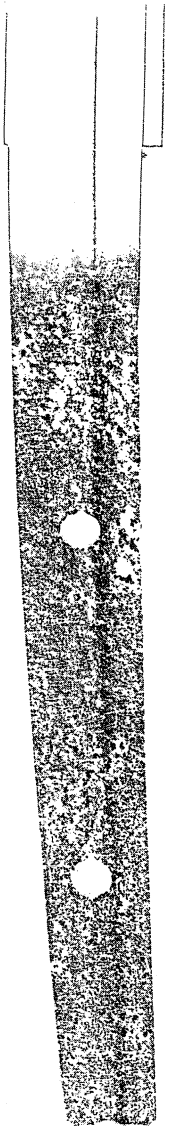


太刀　銘　助久

法量　（単位cm）
　　刃長　73.3　反り　2.1
　　元幅　2.7　先幅　1.75
　　元重　0.6　先重　0.4
形状　鎬造、庵棟、中鋒、反りやや高くつく。
鍛　板目、地景入り、地沸つくが、所々叢となる。
刃文　中直刃調、匂本位で、小互の目交じり、小足入り、刃縁、物打辺にほつれ目立ち、打のけかかる。
帽子　焼深く、大丸風に返り、先掃きかける。
彫物　表裏とも棒樋に添樋角止。
茎　少し磨上げ、先浅い栗尻、鑢目勝手下り、目釘孔５。
説明　太刀の形態から、室町時代前期の作と見られる。助久は、備前、近江などにいるが、この助久は国、系統など不明である。また、鍛の肌や地沸が叢になっていることから、再刃の可能性も考えられる。

刀　無銘　相州康春

法量　（単位cm）
　　刃長　69.0　反り　1.5
　　元幅　2.7　先幅　1.95
　　元重　0.8　先重　0.5
　　鋒長　3.9
形状　鎬造、庵棟、中鋒延びごころとなり、先反りつく。
鍛　板目肌、地沸つき、地景入る。
刃文　のたれに互の目、尖り刃など交じり、小さな飛び焼入り、沸つく。
帽子　のたれこみ大丸に返る。
茎　大磨上、先切、鑢目切、目釘孔２。
説明　大磨上げ無銘であるが、先反りの目立つ形状、のたれに互の目、小さな飛び焼がかかった刃文などから、室町時代末期永禄頃の相州鍛冶の作と見られる。室町末期の相州鍛冶は綱広ほか、康春、康国らがおり、いずれも似たような作風を見せている。

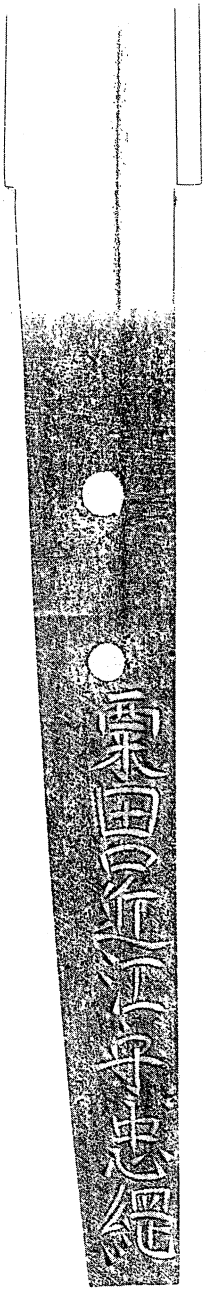


刀　銘　粟田口近江守忠綱

法量　（単位cm）

刃長　69.7　反り　1.0
元幅　3.1　先幅　2.2
元重　0.7　先重　0.5
鋒長　4.0

形状　鎬造、庵棟、中鋒、磨上げて反りが浅い。
鍛　小板目よくつみ、地沸細やかにつく。
刃文　下半丁子乱れ、足長くよく入り、足にかかって砂流しかかり、上半中直刃、小足入り、沸よくつく。
帽子　直に小丸に返る。
茎　磨上げ、先切、鑢目筋違い、目釘孔２。
説明　二代目粟田口忠綱の作。初代近江守忠綱は姫路出身で大阪に移った。二代目は初代の子で、一竿子と号し、濃密、装飾的な龍の彫物を得意とし、元禄期の大阪新刀鍛冶を代表する刀工にあげられている。涛蘭刃、直刃、丁子乱れを得意としているが、本作は上半を直刃、下半を足が長く入った独特の丁子刃としており、出来も良い。このような上下で異なる刃文にするのは室町時代後期の備前刀には稀に見られるが、新刀では珍しい。

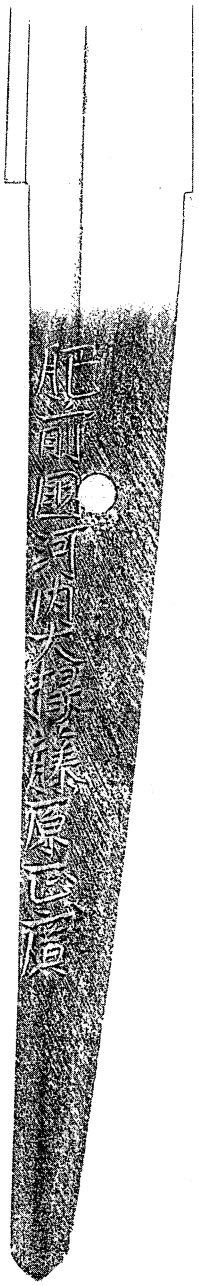


刀　銘　肥前国河内大掾藤原正広

法量　（単位cm）

刃長　70.6　反り　1.5
元幅　2.9　先幅　2.0
元重　0.65　先重　0.5
鋒長　3.3

形状　鎬造、庵棟、中鋒、反りやや浅い。
鍛　小板目に大肌交じり、地沸つき、地影入る。
刃文　大互の目、耳形の刃、尖り刃など交じり、飛焼入り、沸よくつき、砂流し頻りにかかる。
帽子　のたれ込み先丸く返る。
茎　生、先剣形、大筋違、目釘孔１。
説明　正広は肥前新刀鍛冶の祖忠吉の弟子で娘聟となった吉信の子で、忠吉家とともに肥前鍛冶繁栄の礎を築いた。作品は寛永元年（1624）から寛文４年（1664）まで見る。この刀は、大互の目出来の正広の典型作である。銘の書体から寛永の終り頃の作と見られる。

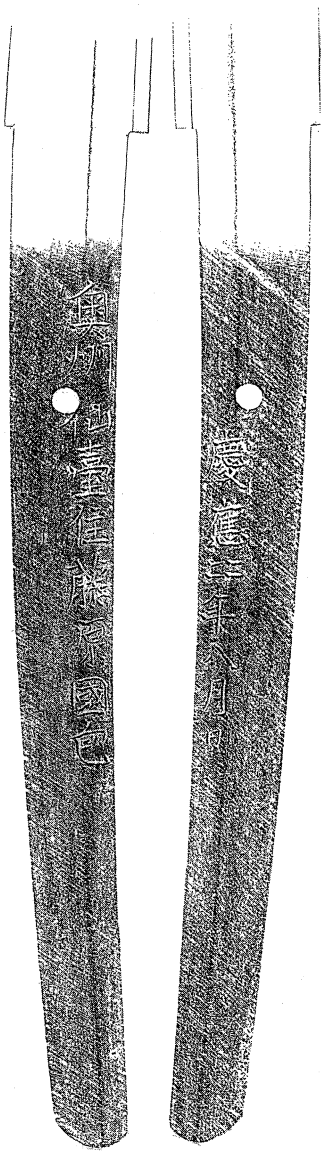


刀　銘　奥州仙臺住藤原国包
慶應二二年八月日

法量　（単位cm）

刃長	77.4	反り	1.6
元幅	2.95	先幅	1.75
元重	0.7	先重	0.5
鋒長	2.7		

形状　鎬造、庵棟、中鋒つまり、反り浅くつく。
鍛　小板目肌、裏柾目肌交じり、地沸つく。
刃文　尖り互の目乱れ、足入り、匂い勝ち小沸く。
帽子　のたれこみ小丸に返る。
彫物　表三鈷付倶利伽羅、裏護摩箸。
茎　生、先浅い刃上栗尻、鑢目化粧付筋違、目釘孔１。
説明　国包は大和保昌の末流といい、寛永頃の用恵国包を初代として、幕末まで仙台伊達藩工として栄えた。本作は慶應の年号から十三代にあたる。しかし、作風、銘の書体とも通例とは異なっており、検討する余地がある。

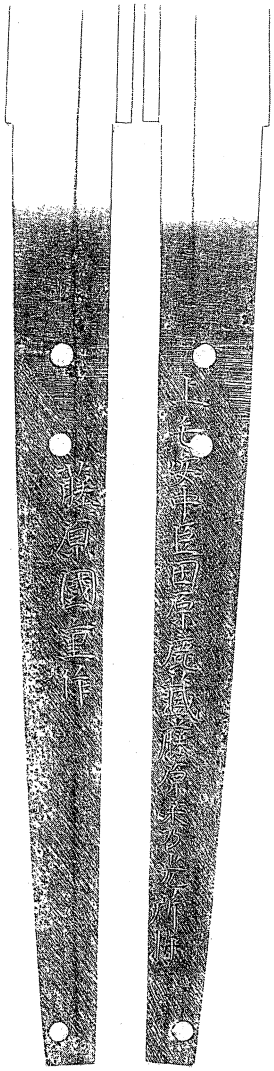


刀　銘　藤原国重作
上毛安中臣田原鹿蔵藤原秀光所持

法量　（単位cm）

刃長	75.7	反り	1.2
元幅	3.2	先幅	2.3
元重	0.8	先重	0.6
鋒長	4.2		

形状　鎬造、庵棟、中鋒、重ね厚く反りが浅い。
鍛　大板目、地景入り、地沸く。
刃文　互の目に丁子、尖り刃交じり足入り、頭が揃って砂流し頻りにかかり、金筋入る。
帽子　のたれ込み先小丸、掃きかける。
茎　磨上、先切、鑢目化粧付き大筋違、目釘孔３。
説明　重ね厚く長寸の作り込みから幕末期の作と思われるが、作者の国重は刀剣名鑑に記載がなく、詳しいことは分からない。しかし、上毛安中臣の所持銘があること、銘と茎の仕立てが幕末の上州刀工長谷部義重に似ることから、義重系の刀工と考えられる。



刀　銘　於東都笠間一貫斎繁継（花押）
　　昭和十三年二月吉日
　　頭山満翁邸内造之

法量　（単位cm）
　　刃長　66.5　反り　1.8
　　元幅　3.2　先幅　2.8
　　元重　0.7　先重　0.5

形状　鎬造、庵棟、中鋒延びこころ、反りやや高くつく。

鍛　板目肌、地沸つく。

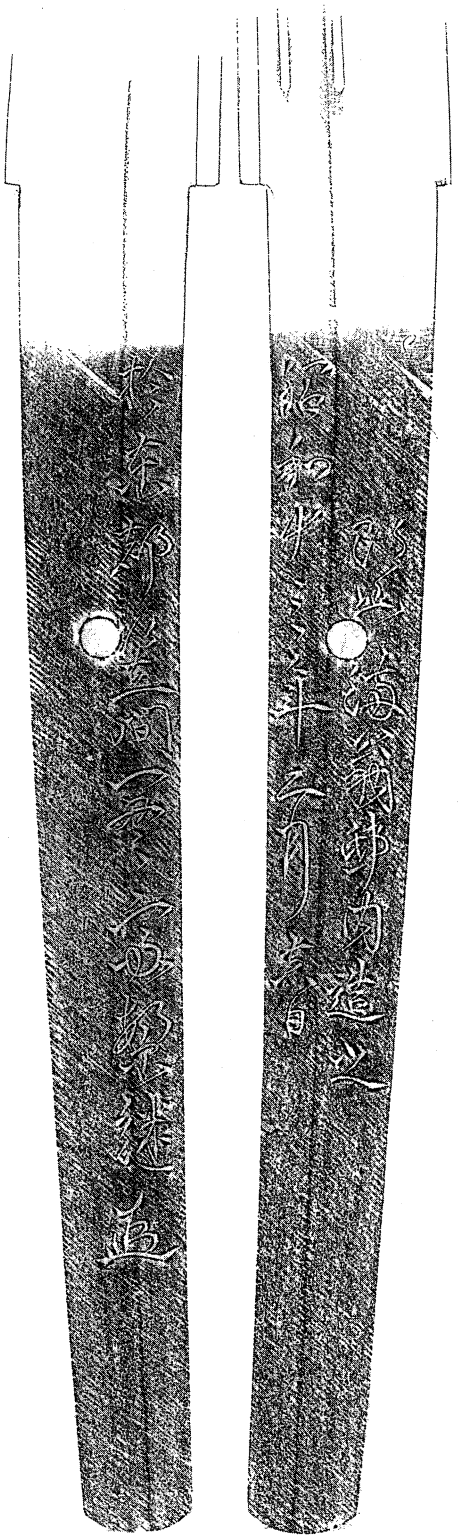
刃文　丁子に互の目交じり、総体に足長くよく入り、沸よくつき、裏焼頭沸崩れが見られる。

帽子　表直に丸く、裏乱れこみ先尖りごころに掃きかける。

彫物　表三鈷付倶利伽羅、裏種子に護摩箸。

茎　生、先栗尻、鑢目化粧付筋違、目釘孔１。

説明　笠間一貫繁継は明治19年、静岡に生まれる。森岡正吉に学び、赤坂の日本刀伝習所師範となり、廃刀令後衰退した日本刀鍛練の技術を後進に指導した。昭和40年没。銘文にある頭山満は明治から昭和初期にかけての代表的な右翼浪人。



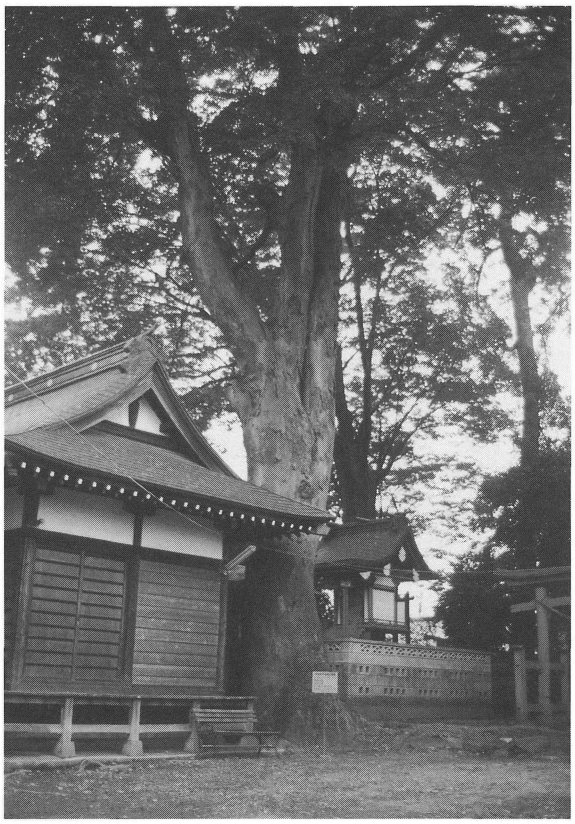
III　新指定文化財紹介

1．井出上神社のシイ

・区　分　　天然記念物
・記号番号　　天第６号
・指定年月日　平成12年４月14日
・所在地　　飯土井町甲１
・所有者　　井出上神社
・管理者　　井出上神社
・概　要

井出上神社境内にあり、南と西は２ｍ程の石垣に囲まれた盛土上にある。目通り周3.6ｍ、樹高16.0ｍに達するシイである。地上2.5ｍ付近で大きな枝が分かれ、そのうちの一本は西へほとんど水平な状態で約７ｍ横に伸びている。主幹は地上10ｍ付近より折れ、その脇から新しい主幹が垂直に立っている。葉量も多く、樹形、樹勢とも大変良好である。シイは県内では自生せず比較的本数は少ない。神社境内であるため指定地の設置や周辺への配慮は少なく、本市にとって貴重な巨樹である。樹齢は、200～300年と推定されている。

２．春日神社のケヤキ



・区　分　　天然記念物
・記号番号　　天第７号
・指定年月日　平成12年４月14日
・所在地　　上佐鳥町374
・所有者　　春日神社
・管理者　　春日神社
・概　要

春日神社神殿のすぐ東側にある。目通り周5.0ｍ、樹高30.0ｍ、根周り16.0ｍに達するケヤキである。地上４ｍより二幹に分かれ、枝張りが東西25.5ｍ、南北29.5ｍにも及び、ケヤキらしい樹冠を呈して姿がよい。ほうき状に枝が繁っているのは珍しい。枝折れや腐朽は特に見当たらず、葉量も多く樹形、樹勢とも大変良好である。

神社境内であるため、指定地の設置や周辺への配慮は少なく、本市にとって貴重な巨樹である。樹齢は、300～400年と推定されている。

Ⅳ　文化財保護事業

1．保護管理運営事業

本市に存在する豊かな文化財を保護し、活用するために、平成11年度において、次のような事業を実施した。

（1）　国有文化財の管理

国指定史跡の（総社）二子山古墳と（天川）二子山古墳は、それぞれ地元の田中勝さんと堀口和四郎さんを国有文化財監視人にお願いし、日常管理を実施した。

また、除草作業や清掃作業等については、地元の総社地区史跡愛存会と前橋市連合青年団の方々の協力を得て実施した。

（2）　国・県・市指定文化財管理

市内には、国指定文化財が21件、県指定のものが40件、市指定のものが114件あり、合計175件の指定文化財がある。

各文化財には、標柱と説明板を設置し、これらの文化財を訪ねる人々の利便をはかっている。

なお、区分については下記のとおりである。

① 指定区分別文化財（12.4.14現在）

区分／種別	重要文化財	史跡	天然記念物	無形文化財	民俗文化財	重要美術品	合計
国指定	3	11	1	0	0	6	21
県指定	34	5	0	0	1	0	40
市指定	73	18	7	8	8	0	114
合　計	110	34	8	8	9	6	175

② 時代区分別文化財（12.4.14現在）

指定別（件数）／時代別	国指定	県指定	市指定	合計	
				件数	割合%
天　　然	1	0	7	8	4.6
原　　始	1	0	0	1	0.6
古　　代	15	3	17	35	20.0
中　　世	2	18	33	53	30.3
近　　世	2	15	40	57	32.6
近　　代	0	3	1	4	2.2
民　　俗	0	1	16	17	9.7
合　　計	21	40	114	175	100

（3）　史跡の除草・清掃事業

市内各地区に存在する史跡において、市が直接管理すべきものについて、地元自治会やシルバー人材センター、業者に除草・清掃作業を委託し、史跡が美しく保たれるように作業を実施した。

実施箇所は、下記の表の通りである。

番号	物件名	区分	所在	面積
1	亀塚山古墳	市指定史跡	山王町1-28-3	2,484㎡
2	金冠塚古墳	市指定史跡	山王町1-13-3	2,407㎡
3	今井神社古墳	市指定史跡	今井町818	3,000㎡
4	車橋門跡	市指定史跡	大手町2-5-3	400㎡
5	天神山古墳	県指定史跡	広瀬町1-27-7	730㎡
6	八幡山古墳	国指定史跡	朝倉町4-9-3 他	15,081㎡
7	前二子山古墳	国指定史跡	西大室町 2659 他	11,068㎡
8	中二子山古墳	国指定史跡	東大室町五料 1501	16,000㎡
9	後二子山古墳	国指定史跡	西大室町内堀 2616-1 他	12,283㎡
10	蛇穴山古墳	国指定史跡	総社町総社 1587-2	1,793㎡
11	宝塔山古墳	国指定史跡	総社町総社1606	2,204㎡
12	女堀	国指定史跡	東大室町・二之宮町・飯土井町	36,596㎡
13	不二山古墳	市指定史跡	文京町	562㎡
14	荒砥富士山古墳	県指定史跡	西大室町	1,350㎡
計				105,958㎡

除草の様子

（4）　文化財パトロール

市内を６地区に分け、各地区に１名の文化財保護指導員を委嘱し、指定文化財を中心に文化財パトロールを実施した。

文化財パトロールの結果は、月に１～２回程度文化財保護課に報告してもらい、管理していく上での情報を伝えてもらった。そのため、緊急事態に対処することができた。

各地区の文化財保護指導員は、表の通りである。

地　区	氏　名	住　所	電 話
中　央	福島　守次	天川大島町	
総社・清里	関口　淳七	総社町総社	
東・元総社	中島　孝雄	石倉町	
上川渕・下川渕	関根　辰男	山王町	
南橋・芳賀・桂萱	栗原　秀雄	荒牧町	
城　南	森村伊勢雄	富田町	

（5） 松食虫、アメリカシロヒトリ防除事業

前橋市の管理する史跡地内の松の木に発生する松食虫の駆除を行うために、農政課に協力し防除薬剤散布に立ち会った。また、業務委託により、桜の木に発生するアメリカシロヒトリなどの害虫防除を行って、史跡の環境保全を図った。

＜松食虫の防除＞

八幡山古墳・大室公園

［１回目］６月１日(火)　［２回目］６月15日(火)

＜アメリカシロヒトリ防除＞

総社二子山古墳・宝塔山古墳・蛇穴山古墳・前二子古墳・中二子古墳・天川二子山古墳

［１回目］６月８日(火)　［２回目］８月６日(金)

薬剤散布の様子（大室公園）

薬剤散布の様子（総社二子山古墳）

（6） 前橋市蚕糸記念館の管理・運営

明治45年国立原蚕種製造所前橋支所の本館として建設されたもので、明治末期の代表的な洋風建築として、昭和56年に県指定重要文化財になった。翌57年前橋市蚕糸記念館として一般公開された。

この間の風雪等により、屋根の瓦がずれたり、浮き上がるなどの傷みがみられ、屋根の部分補修を実施した。しかし、屋根北面の傷みは部分補修だけでは対応できないほど進行しており、屋根の状況把握を的確にし、修理方針を策定する資料を得る目的で、調査を委託、実施した。また、スプリンクラー設備の修繕も行った。

本年度の入館者は、7,735名あった。

屋根の状況調査の様子

（7） 文化財消防査察

１月26日の文化財防火デーにちなみ、貴重な文化財を火災等から守るため、消防査察を実施している。本年度は１月26日（月）に、次の指定文化財所在地で査察を行った。

妙安寺、東照宮、源英寺、東福寺、総合教育プラザ、臨江閣本館・茶室・別館、孝顕寺、円満寺、駒形神社、旧関根家住宅、無量寿寺、二宮赤城神社、産泰神社、慈照院、上野総社神社、光厳寺、徳蔵寺、大徳寺、前橋市蚕糸記念館、日輪寺、上泉郷蔵、小河原武吉氏宅、善勝寺。

１月23日（日）には、三夜沢の赤城神社において、火災から守る消防訓練が行われた。

2．整備事業

（1） 歴史散歩整備事業

平成11年度は、案内・休憩施設としての総社資料館の管理・運営を行い、総社古墳群や秋元氏関係等の文化財の見学者に対応した。城南歴史散歩道計画については、女堀の公有化と大室史跡公園の進捗状況を勘案しながら、文化財資源調査などを進めている。

①総社資料館の管理・運営

今年度の特色は、山王廃寺展と小学校へのアンケート実施である。山王廃寺展は、８月21、22日に行った。これは今年度の発掘調査で出土した塑像等を展示した。また、来館小学校へアンケートを行い、総社資料館の展示についての様々な意見を聞くことができた。今後の総社資料館の運営に役立てていく予定である。

ボランティア説明員（総社史跡愛存会）の方々には今年度も大変お世話になった。夏には草むしりを早朝より協力して行った。また冬には、埼玉県へ資質向上のために研修視察に行った。

今年度の開館日数は、247日で来館者数は4,244人あった。

②「第10回秋元歴史まつり」への協力

11月13、14日に秋元歴史まつりが行われた。今年度は、武者行列のない年なので、総社資料館で山王廃寺展を行った。あわせて、午前と午後の２回、山王廃寺についてのミニ講義を実施し、来館者は熱心に聞き入っていた。両日あわせて2,000人近くの方が来館し、にぎわいをみせていた。

（2） 文化財標柱・説明板等設置工事

平成11年度は、次の指定文化財の標柱・説明板の立替え・新設を実施した。標柱は御影石、説明板はステンレス材を使用し、耐久性を高めるとともに、説明板に写真やイラストを挿入するなどして、より分かり易いものにした。さらに、説明板には文化財愛護作品コンクールの標語の部の優秀賞以上のものを記載し、これを通して文化財に愛着を持ってもらうようにした。

※　標柱の立替え・新設　　３基

①　市指定天然記念物「西大室町公民館のオハツキイチョウ」

②　市指定重要文化財「鳥羽の大日如来及び笠塔婆」

③　市指定重要文化財「旧関根家住宅」

※　説明板の立替え・新設　　５基

①　市指定天然記念物「西大室町公民館のオハツキイチョウ」

②　市指定重要文化財「旧関根家住宅」

③　市指定史跡「オブ塚古墳」

④　市指定重要文化財「笠薬師塔婆」

⑤　県指定史跡「力田遺愛碑」

「西大室町公民館のオハツキイチョウ」の標柱

「笠薬師塔婆」の説明板

（3） 史跡境界杭の設置

平成10年度の公有地化した国指定史跡女堀（二之宮地区）の史跡境界を復元し、杭を設置した。

女堀二之宮地区

３．普及事業

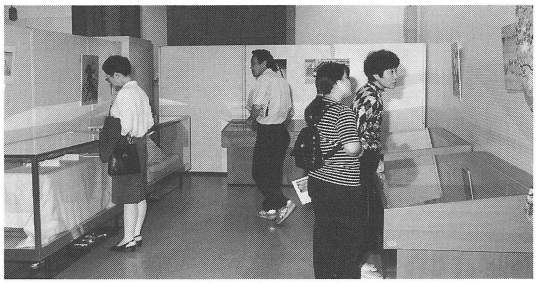
（１） 第25回前橋市文化財展

・期日　　平成11年５月27日(木)～31日(月)
・会場　　群馬県民会館　第１展示室
・テーマ　「前橋の重要文化財」

前橋市文化財展25周年と増補「前橋の文化財」発刊を記念し、「前橋の重要文化財」をテーマに指定文化財を中心とした文化財展を開催した。

展示内容としては、考古資料・工芸品・書跡・絵画・歴史資料・仏像など幅広い分野にわたる選りすぐりの文化財で、ふだんは目にすることができないものばかりであった。

開催期間の５日間の入場者数は、約1,800名にのぼり、内容についても、見学者から大変好評をもって迎えられた。



（２） 第27回前橋市郷土芸能大会

・日時　　平成11年11月13日(土)
　　午後１時～４時30分
・場所　　前橋市民文化会館　小ホール

市内に伝わる郷土芸能を保護・育成するとともに広く市民に公開し市民文化の向上を図ることを目的に、本大会を開催してきた。公演は、広域圏８団体が郷土芸能を公開した。約500人の来場者には、多種多様の郷土芸能の競演が好評であった。

○公演および出演団体

「産泰神社太々神楽」／産泰神社御神楽保存会（前橋市下大屋町）
「新前橋まつりばやし」／同保存会（前橋市新前橋町）
「赤城神社太々神楽」／同保存会（勢多郡宮城村）
「父母の恩供養和讃・浄邦和讃」／前橋南部詠歌和讃の会（前橋市上佐鳥町）
「野郎万才」／泉沢町郷土芸能保存会（前橋市泉沢町）
「御霊神社太々神楽」／女渕太々神楽保存会（勢多郡粕川村）
「田植唄・麦打唄」／足軽町田植唄・麦打唄保存会（勢多郡大胡町）
「野良犬獅子舞」／同保存会（前橋市清野町）

（３） 第９回文化財愛護作品コンクール

児童生徒の文化財に対する愛護精神を育成するために、文化財愛護作品コンクール（標語と絵画）とその最優秀作品による文化財愛護ポスター作成を交互に隔年実施している。今年度はコンクールを実施の年として、市内の小中学生を対象に作品応募したところ、902点の作品が寄せられた。

専門の審査員による慎重な審査の結果、下記の児童生徒の作品が選ばれた。

なお、選ばれた作品は、市役所12階市民ロビーに展示し、多くの市民に見ていただくとともに、文化財に対する愛護の気持ちを高める一助となった。

展示期間　平成11年12月２日(木)～16日(木)

標語の部

市長賞	阿部　利栄	東　中１年
「素敵だね　この目に映る　歴史の景色」		
教育長賞	岡田　陽介	山王小４年
	高橋　恭一	駒形小６年
優秀賞	岩崎　文香	岩神小６年
	赤尾　江梨	第一中３年

絵画の部

市長賞	寺澤　知実	山王小５年
教育長賞	奈良場真衣	桂萱中１年
	内山　　将	東　中１年
優秀賞	石原　真吾	大室小６年
	松嶋　純子	第六中２年

（４） 中央公民館特別展示

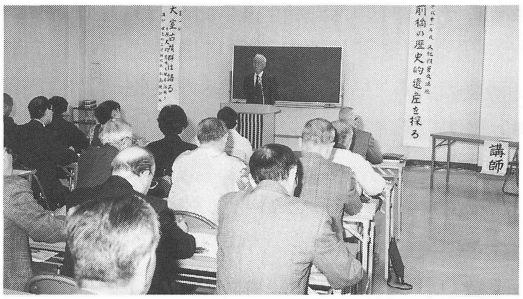
・期間　　平成11年11月５日～平成12年１月31日
・会場　　前橋市中央公民館１階文化財展示コーナー
・テーマ　「大室古墳群の埴輪」

大室古墳群から出土した埴輪を展示し、古墳時代における前橋の文化の一端を多くの市民の方々に見てもらった。

（５） 第18回文化財普及講座

本年度は、「前橋の歴史的遺産を探る」をテーマに史跡等に視点をあて、地域の歴史や文化への理解を深める講座とした。また、講座内容と関連のある中央公民館での特別展の展示解説を講師にしていただいた。

期日	演　　題	講　　師
11/6 （土）	大室古墳群は語る -歴史的意味とその保存活用-	松嶋　榮治　氏 嬬恋郷土資料館館長
11/20 （土）	見果てぬ夢・女堀 -開発にかける人々の願い-	能登　　健　氏 県埋文事業団第一課長
11/27 （土）	歴史の道の保存と活用 -沼田街道と佐渡奉行街道-	三浦　茂三郎　氏 県立前橋南高校教諭



（6）　郷土芸能映像記録保存

市指定無形文化財（郷土芸能）の映像記録保存は、次世代への伝承と市民への普及活動を目的として行われている。道具や演技の方法、しぐさ、間合い、一挙一動、声などをも細かく記録するため、ＶＴＲ専門業者に撮影、編集を委託し、レーザーディスクにして永久保存を図っていくものである。平成８年度から平成18年度まで行われる予定になっている。

今年度は野良犬獅子舞保存会に依頼し、10月の秋の例祭（３日）に八幡宮境内で撮影が行われた。曇りがちであったが、青年層と熟年層がうまくマッチした演技で無事行われ、レーザーディスクの完成となった。

（7）　文化財めぐりパンフレットの増刷

市内を６地区に分けた文化財めぐりパンフレットのうち、今年度は「芳賀・桂萱地区」「元総社・東地区」の２地区のパンフレットを増刷した。これまでのパンフレットをＢ４判からＡ３判に改め、見やすいものにした。新たに加わった新指定文化財を追加掲載するとともに、これまでの標語に換え、平成11年度に文化財愛護作品コンクールで入賞した標語を掲載した。

（8）　大室古墳群パンフレットの増刷

大室公園の建設が進み、公園内にある古墳整備も進展するのに伴い、多くの市民の見学や県内外の視察なども大変増えてきた。このような内外の要望に応えるために、パンフレットの内容の一部手直しを行い、刊行した。

（9）　刀剣類の手入れ

平成９年度に、故石井昌重氏の遺族から寄贈された貴重な刀剣、刀装具等を良好な状態で保存するため、特に錆びやすい刀剣について手入れを実施した。また、有名刀工作の刀の一部にあった錆を発見したため、この刀の研磨と白鞘の作成を行った。

（10）　各種講座・史跡・文化財めぐり講師派遣

「それゆけ！まえばし出前講座」や公民館の主催する文化財講座、地域の歴史愛好会の学習会の講師として依頼され、学習活動の手伝いをした。また、小学校の学習会や社会科見学・自治会の史跡めぐりの講師として、現地に赴き、史跡や文化財の説明をし、文化財への理解を深めてもらった。

（11）　文化財教材の開発事業

学校教育や社会教育の場で活用されることを目的として、学習ビデオを作成した。今年度は、市内の古墳を題材とし、前橋に残っている古墳の紹介をするとともに、その歴史的価値などにも触れ、わかりやすい内容のものを作成した。

（12）　文化財資料の貸出

文化財資料の貸出のうち、実物資料の貸出が、県内外の博物館・資料館などへ７件、写真資料の貸出が出版社を中心に23件あった。

主な実物資料の貸出は次の通りである。

貸出資料	貸出先
四神付飾土器	かみつけの里博物館
俗形婦人像頭部	群馬県立博物館
産卵蛾輪など	日本絹の里
柳久保水田跡墨画土師器杯	船橋市郷土資料館

（13）　文化財保存団体への助成

それぞれの地区に残る文化財の説明板や標柱の設置、郷土芸能の継承など、文化財の保護・保存のために活動している次の団体に、補助金の助成をした。

・総社地区史跡愛好会
・荒砥史談会
・前橋市郷土芸能連絡協議会

（14）　旧アメリカン・ボード宣教師館移築工事の補助

県指定重要文化財旧アメリカン・ボード宣教師館移転工事が、平成10年度から12年度の３カ年事業として県の文化財保存事業に採択され、県、市及び文化財保護振興財団の補助金を得て実施された。平成11年度については、屋根、柱、煙突等の復元工事を中心に実施した。

（15）　力田遺愛碑覆屋設置工事の補助

県指定史跡力田遺愛碑の碑文を風雨等から守るため、地元住民の強い要望により、覆屋の設置工事が県の文化財保存事業として採択され、県、市の補助金を得て実施された。覆屋の設置にあたっては、見学者の利便を考慮し、碑文が覆屋の柱で隠れないようにした。また、車椅子でも見学しやすいように、段差のない構造になった。

４．埋蔵文化財発掘調査事業

平成11年度の発掘調査をふりかえって

平成11年度は、15カ所の発掘調査が行われた。発掘調査は、公共開発に伴うものが14件で、民間開発に伴うものが１件である。バブル後の不況で民間開発の件数も減少し、発掘調査件数も減少した。

公共開発では、道路改良に伴うものが４件、土地改良に伴うものが２件、住宅団地造成に伴うものが４件、公園整備に伴うもの、プール改築に伴うもの、区画整理事業に伴うもの、河川改修に伴うものが各１件であった。

調査の総面積は29,836㎡となった。

北関東自動車道関連の調査は、ほぼ終了したが住宅団地関連の調査が増大してきている。住宅団地及び工業団地造成に伴う調査は、来年度以降増大する見込みである。

個々の調査の概要を列記すると以下のようになる。

山王廃寺等Ⅴ遺跡では、山王廃寺焼失後の廃材や塑像片等を埋めた廃棄土坑の調査を行い、約3,000点の塑像片や塑壁片等の他瓦片多数が出土した。

田口八幡Ⅰ・Ⅱ遺跡はいずれも土地改良に伴う調査であるが、平安時代の住居跡などを検出した。

内堀遺跡群ⅩⅡでは、公園整備に伴う調査で、古墳時代及び縄文時代の住居跡のほか周溝墓等を検出した。

横手湯田Ⅵ遺跡は都市計画道に伴う調査であるが、地区全体に広がっていると見られる平安時代の水田跡を検出した。前田Ⅴ・Ⅵ遺跡は、住宅団地造成に伴う調査であるが、水田として利用されていた土地の下から100軒を越える平安時代の住居跡や水田跡が検出された。

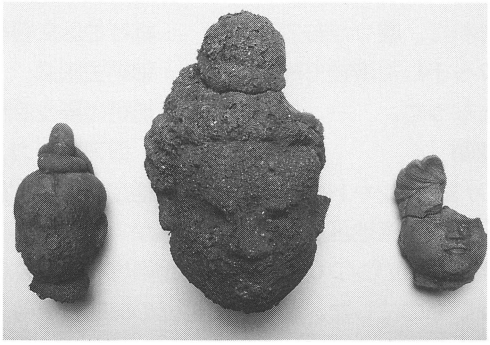
鶴光路榎橋Ⅱ遺跡と徳丸高堰Ⅲ遺跡は北関東自動車道側道関連の調査であるが、奈良～平安時代の住居跡の他に中近世の溝等を検出した。

上川淵鶴巻Ⅱ遺跡は公営住宅建設に伴う調査であるが、古墳時代の住居跡と溝を検出し、溝からは大型の須恵器の破片が出土している。

元総社蒼海地区区画整理事業に伴う上野国分尼寺域の確認調査が行われ、南限と推定される溝が検出された。

総社閑泉明神北遺跡は想定国府域の東にあたる位置で、河川改修に伴う調査を行い、古墳時代の水田跡・溝跡などを検出した。

大室小学校校庭Ⅳ遺跡では古墳時代の住居跡を、江田下り柳遺跡では平安時代の水田跡を、堤沼下遺跡では平安時代の住居跡などを検出した。



山王廃寺跡出土塑像頭部

平成11年度埋蔵文化財発掘調査一覧表

番号	遺跡コード	遺跡名	所在地	調査面積 ㎡	調査原因	調査期間
1	11E－11	内堀遺跡群Ⅻ（うちぼりいせきぐん）	前橋市西大室町2539他	3,380	公園整備	平成11.4.30～11.10.7
2	11A－96	山王廃寺等Ⅴ遺跡	前橋市総社町2399先他	1,200	道路改良	平成11.6.21～11.7.10
3	11B－6	田口八幡Ⅰ遺跡（たぐちはちまん）	前橋市田口町359他	1,100	土地改良	平成11.9.16～11.12.3
4	11B－7	田口八幡Ⅱ遺跡（たぐちはちまん）	前橋市田口町359他	1,600	土地改良	平成11.10.20～11.12.3
5	11G－41	前田Ⅴ遺跡（まえだ）	前橋市中内町155番１他	1,500	住宅団地拡張	平成11.10.5～11.12.16
6	11G－42	前田Ⅵ遺跡（まえだ）	前橋市中内町155番１他	4,940	住宅団地拡張	平成11.11.18～12.3.15
7	11G－39	横手湯田Ⅵ遺跡（よこてゆでん）	前橋市鶴光路町89番地４他	2,857	道路改良	平成11.6.4～11.9.28
8	11G－36	上川淵鶴巻Ⅱ遺跡（かみかわふちつるまき）	前橋市広瀬町三丁目20番地他	400	公営住宅建設	平成11.9.16～11.10.5
9	11A－97	総社閑泉明神北遺跡（そうじゃかんせんみょうじんきた）	前橋市総社町総社3614－１他	29,836	河川改修	平成12.1.5～12.3.24
10	11E－45	大室小学校校庭Ⅳ遺跡（おおむろしょうがっこうこうてい）	前橋市東大室町763番１他	100	プール改築	平成11.5.20
11	11D－14	堤沼下遺跡（つつみぬました）	前橋市堤町８番地	6,000	住宅団地造成	平成12.1.28～12.3.26
12	11A－95	江田下り柳遺跡（えださがりやなぎ）	前橋市江田町171－１	150	宅地造成	平成11.4.15～11.4.23
13	11G－35	鶴光路榎橋Ⅱ遺跡（つるこうじえのきばし）	前橋市鶴光路町277－１他	398	道路改良	平成11.5.12～11.11.8
14	11G－36	徳丸高堰Ⅲ遺跡（とくまるたかぜき）	前橋市徳丸町23－１他	893	道路改良	平成11.5.12～11.11.8
15	11A－99	上野国分尼寺遺跡（こうずけこくぶにじ）	前橋市総社町1535他	218	区画整理（寺域確認）	平成12.3.19～12.3.23

平成11年度試掘調査一覧表

No.	所在地	開発面積（㎡）	開発原因	調査年月日	試掘調査結果の概要
1	江田町字下り柳157番５他	4,500.00	宅地造成	11.4.6	平安時代の水田跡を検出。（江田下り柳遺跡）
2	東大室町763番１他	3,300.00	大室小学校プール改築	11.4.27	古墳時代の住居跡を検出。（大室小学校校庭Ⅳ遺跡）
3	江田町字諏訪前87－１	1,303.00	宅地造成	11.5.11	遺構は検出されず。
4	江田町字田中境220－２・３	1,490.92	宅地造成	11.5.11	遺構は検出されず。
5	富田町2368番地内	380.26	移動通信用無線基地局新設	11.5.24	遺構は検出されず。
6	朝倉町四丁目６－７	520.00	アパート建設工事	11.6.11	遺構は検出されず。
7	六供町地内	960.00	土地区画整理事業	11.7.8	遺構は検出されず。
8	新井町176－１他	3,436.00	汚水処理施設建設	11.7.28	遺構は検出されず。
9	文京町一丁目501－１他	2,833.12	マンション建設工事	11.8.11	遺構は検出されず。
10	問屋町二丁目９番11ほか	619.99	宅地造成	11.8.26	遺構は検出されず。
11	広瀬町三丁目20番地他	1,860.00	公営住宅建設	11.9.3	古墳時代住居跡と溝を検出。（上川淵鶴巻Ⅱ遺跡）
12	青柳町字新屋敷前577－１	1,720.00	宅地造成	11.10.13	遺構は検出されず。
13	富田町地内	18,500.00	宅地団地造成	11.10.28～29	遺構は検出されず。
14	下沖町356－３外44筆	70,930.00	商業施設建設	11.11.2	遺構は検出されず。
15	江木町地内	5,700.00	住宅団地造成	11.11.4	遺構は検出されず。
16	宮地町35ほか	2,012.56	店舗建築	11.11.17	平安時代の水田跡を検出。（宮地内田遺跡）
17	青梨子町178	1,675.00	診療所建設	11.11.29	遺構は検出されず。
18	箱田町字三丁免1040－１他２筆	2,576.00	宅地造成	11.11.29	遺構は検出されず。
19	江木町字山神1264	1,734.00	土地売買	11.12.7	遺構は検出されず。
20	下細井町字冷田529－２	1,238.00	宅地造成	11.12.7	遺構は検出されず。
21	上佐鳥町512－３他	1,182.63	校舎新築工事	11.12.20	遺構は検出されず。
22	総社町高井字十郎92－１他	2,629.00	アパート兼店舗建設	11.12.20	奈良時代の住居跡を検出。（総社高井十郎遺跡）
23	石関町122－２他	14,600.04	校舎増築工事	12.1.12	遺構は検出されず。
24	後閑町８	451.04	電波塔建設	12.1.12	遺構は検出されず。
25	石関町24番地他	31,918.00	公園整備	12.2.8、14～15	奈良時代の住居跡を検出。（石関西田遺跡）
26	青柳町479－１他３筆	5,829.39	宅地造成	12.2.22	平安時代の住居跡を検出。（青柳宿前遺跡）
27	中内町55－１他３筆	2,059.00	店舗及び住宅建築	12.2.25	遺構は検出されず。
28	後閑町40番	2,873.00	小学校拡張整備事業	12.2.29	遺構は検出されず。

平成11年度表面調査一覧表

No.	所在地	開発面積（㎡）	開発原因	調査年月日	調査結果
1	上細井町字西徳沢前1505番地	121.00	送電線鉄塔化工事	11.6.9	遺構は検出されず。
2	天川大島町1077番地	1,152.56	マンション建設工事	11.6.29	遺構は検出されず。
3	上増田町714番地	417.38	無線基地局新設工事	11.8.19	遺構は検出されず。

平成11年度工事立会調査一覧表

No.	所在地	開発面積（㎡）	開発原因	調査年月日	調査結果
1	千代田町１－１－21	800.00	消防署新築工事	11.7.30	遺構は検出されず。
2	文京町二丁目11－８地先	120.00	道路改修工事	11.8～10	遺構は検出されず。
3	下新田町字町頭58番地他	1,356.00	道路新設工事	11.10.4	遺構は検出されず。
4	元総社町2388番地－１	420.00	道路改良工事	11.10.18	遺構は検出されず。
5	公田町713番地	330.00	無線基地局新設工事	11.10.27	遺構は検出されず。
6	上細井町字西徳沢前1505－２	121.00	送電線鉄塔化工事	11.11.8	遺構は検出されず。
7	上増田町714番地	417.38	無線基地局新設工事	12.2.1	遺構は検出されず。

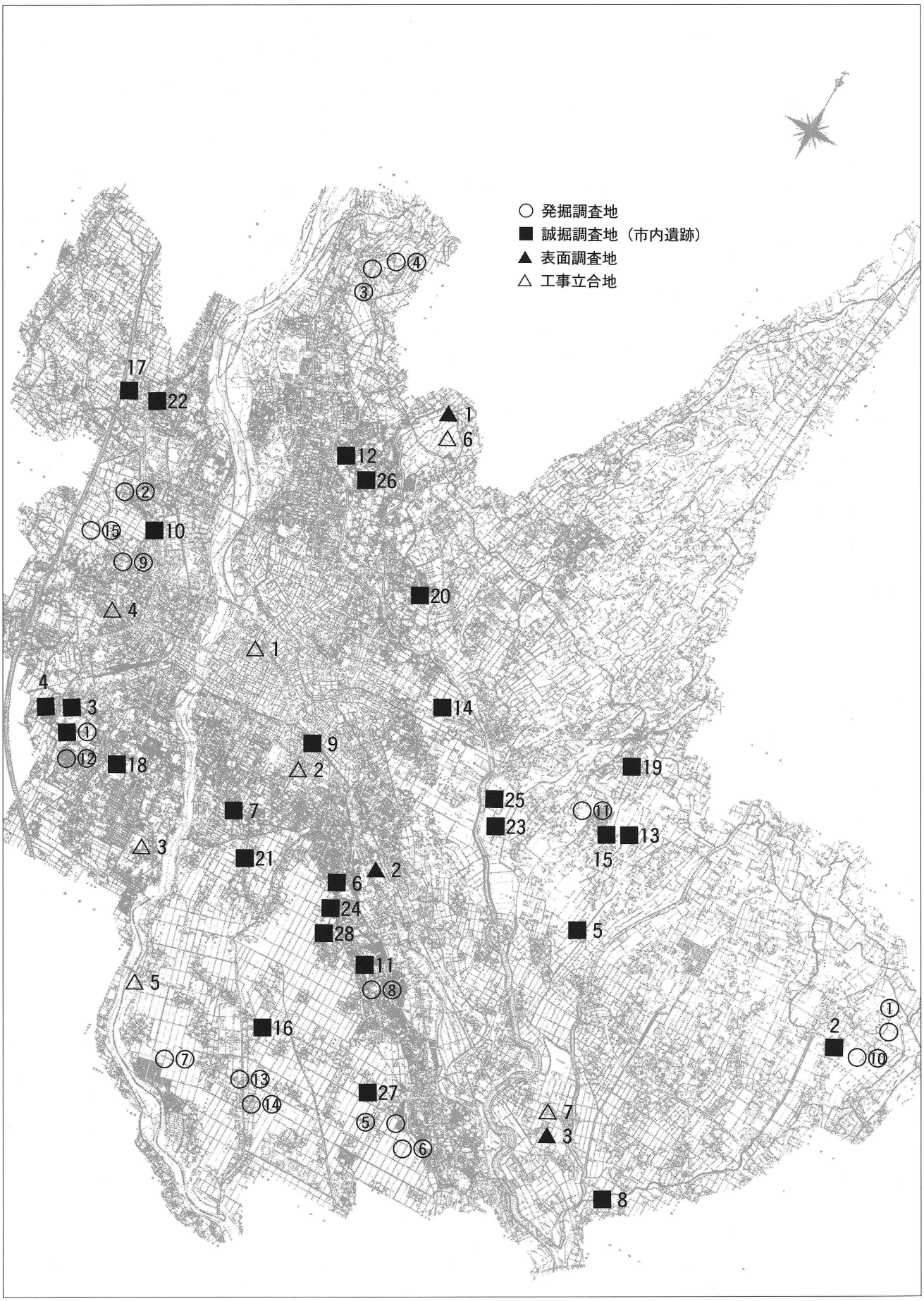
平成11年度埋蔵文化財調査報告書一覧表

番号	報告書名	遺跡名	発行者	発行年月日
1	内堀遺跡群Ⅻ（うちぼりいせきぐん）	内堀遺跡群	前橋市埋蔵文化財発掘調査団	平成12.3.24
2	山王廃寺等Ⅴ遺跡（さんのうはいじどう）	山王廃寺等Ⅴ遺跡	前橋市埋蔵文化財発掘調査団	平成12.3.28
3	田口八幡Ⅰ遺跡（たぐちはちまん）	田口八幡Ⅰ遺跡	前橋市埋蔵文化財発掘調査団	平成12.3.28
4	田口八幡Ⅱ遺跡（たぐちはちまん）	田口八幡Ⅱ遺跡	前橋市埋蔵文化財発掘調査団	平成12.3.28
5	前田Ⅴ遺跡（まえだ）	前田Ⅴ遺跡	前橋市埋蔵文化財発掘調査団	平成12.3.24
6	前田Ⅵ遺跡（まえだ）	前田Ⅵ遺跡	前橋市埋蔵文化財発掘調査団	平成12.3.15
7	横手湯田Ⅵ遺跡（よこてゆでん）	横手湯田Ⅵ遺跡	前橋市埋蔵文化財発掘調査団	平成12.3.24
8	上川淵鶴巻Ⅱ遺跡（かみかわふちつるまき）	上川淵鶴巻Ⅱ遺跡	前橋市埋蔵文化財発掘調査団	平成12.3.24
9	総社閑泉明神北遺跡（そうじゃかんせんみょうじんきた）	総社閑泉明神北遺跡	前橋市埋蔵文化財発掘調査団	平成12.3.24
10	大室小学校校庭Ⅳ遺跡（おおむろしょうがっこうこうてい）	大室小学校校庭Ⅳ遺跡	前橋市教育委員会	平成12.3.24
11	堤沼下遺跡（つつみぬました）	堤沼下遺跡	前橋市埋蔵文化財発掘調査団	平成12.3.24
12	江田下り柳遺跡（えださがりやなぎ）	江田下り柳遺跡	前橋市教育委員会	平成12.3.24
13	鶴光路榎橋Ⅱ遺跡・徳丸高堰Ⅲ遺跡（つるこうじえのきばし・とくまるたかぜき）	鶴光路榎橋Ⅱ遺跡・徳丸高堰Ⅲ遺跡	前橋市埋蔵文化財発掘調査団	平成12.3.23
14	上野国分尼寺寺域確認調査（こうずけこくぶにじ）	上野国分尼寺遺跡	前橋市埋蔵文化財発掘調査団	平成12.3.29
15	市内遺跡発掘調査報告書	市内遺跡	前橋市教育委員会	平成12.3.27

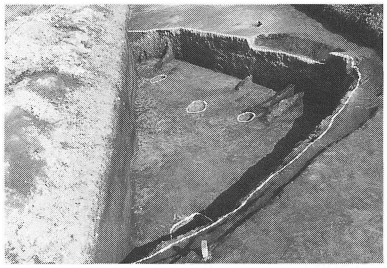
遺跡見学等の一覧

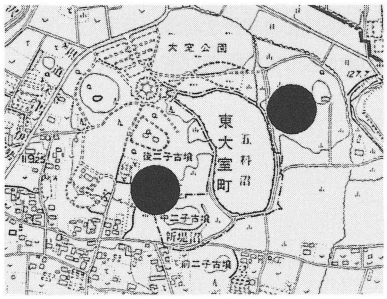
内堀遺跡群（うちぼりいせきぐん）	前橋市西大室町2539他	平成11.10.12	前橋市埋蔵文化財発掘調査団	前橋市立大室小学校５年生の遺跡見学	20人
前田Ⅴ遺跡（まえだ）	前橋市中内町155番１他	平成11.11.18	前橋市埋蔵文化財発掘調査団	前橋市立山王小学校６年生遺跡見学発掘体験	90人
〃	〃	平成11.11.26	前橋市埋蔵文化財発掘調査団	前橋市立春日中学校２年生遺跡見学発掘体験	9人
〃	〃	平成11.12.12	前橋市埋蔵文化財発掘調査団	東善・中内町自治会遺跡見学	40人
前田Ⅵ遺跡（まえだ）	前橋市中内町155番１他	平成12.2.18	前橋市埋蔵文化財発掘調査団	前橋市立第五中学校２年生遺跡見学発掘体験	13人
田口八幡Ⅰ・Ⅱ遺跡（たぐちはちまん）	前橋市田口町436番他	平成11.12.2	前橋市埋蔵文化財発掘調査団	田口町自治会遺跡見学	40人
山王廃寺等Ⅴ遺跡（さんのうはいじどう）	前橋市総社町　総社資料館	平成11.8.21～22	前橋市教育委員会	山王廃寺出土の塑像等の展示	250人
〃	前橋市大手町　市役所ロビー	平成11.8.23～27	前橋市教育委員会	山王廃寺出土の塑像等の展示	
〃	前橋市総社町　山王公民館	平成11.9.26	前橋市教育委員会	地元の方への説明会	80人
〃	前橋市総社町　総社資料館	平成11.11.13･14	前橋市教育委員会	山王廃寺出土の塑像等の展示	
〃	〃　〃	平成11.11.14	前橋市教育委員会	山王廃寺出土の塑像等の説明	80人

調 査 地 等 位 置 図



1．内堀遺跡群Ⅻ



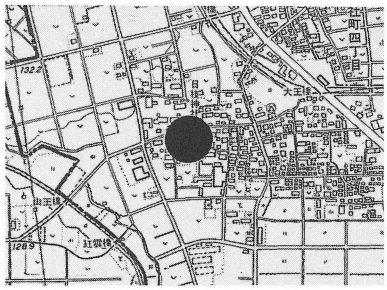


遺跡位置図（前橋市現形図2万分の1）

事業名　大室公園整備事業（公園緑地課）
所在地　前橋市西大室町2539番地他
調査期間　平成11年４月30日～10月７日
担当者　林　信也・平野岳志
調査面積　3,380㎡
調査の経緯　公園整備事業に先立ち公園設計の基礎資料収集と遺跡の記録保存を目的に公園予定地の埋蔵文化財調査の依頼が公園緑地課よりあり、発掘調査に至った。本事業は昭和62年度に始まり、本年度で13年目になる。
立地　前橋市の東端、赤城山南麓の丘陵地に位置し、北は粕川村、東は赤堀町が隣接する。周辺には大室３古墳をはじめ、上縄引遺跡、梅木遺跡、赤堀茶臼山古墳などがある。
内堀遺跡（Ａ区）　調査区は、五料沼の西側、後二子古墳の南側、中二子古墳の西側に位置する５ｍ幅の園路予定地である。縄文前期とみられる住居跡１軒、古墳時代前期とみられる住居跡１軒、浅間Ｃ軽石（４世紀中葉）純層下に埋没していた周溝墓１基などが検出された。このほかにも、溝状遺構２条、土坑９基、柱穴15基及び地震等に起因するとみられる地割れ１条を確認した。主な出土遺物は、瓦塔（胴部～底部）、樽式系・畿内系土器（口縁～頸部）、埴輪片・石鏃（調査区表採・覆土中）等がある。
下縄引Ⅱ遺跡（Ｂ区）　調査区は、五料沼の北東から東岸側を通って南下し、南端で東と南に分岐する５ｍ幅の園路予定地である。残存状態良好な炉址をもつ縄文時代中期とみられる住居跡１軒、４世紀代とみられる住居跡12軒、５世紀代６軒、６世紀代７軒、時期不明の住居跡１軒を検出した。この中で、当時（４世紀代）としては大型な１辺が８ｍ近いＨ－21号住居跡、同住居跡とほぼ同時期とみられる焼失時の痕跡を壁・床面等に克明に残すＨ－23号住居跡（写真）、初期の竈の形状を良く残した５世紀代とみられるＨ－６号住居跡など、個々の住居跡の検出状況からも貴重な資料を得られた。また出土遺物も質・量ともに豊富であり、底部に編篭などの押圧痕を残す長胴甕、孔のあく小甕、瓦塔、碧玉製管玉、剣型とみられる滑石製模造品、有孔円板、土製円板、袋状鉄斧などが、代表的なものとしてあげられる。

このほか、調査区北寄りでは縄文時代とみられる土坑を１基確認、また、北寄り部分に１条、南端部分に１条の地割れを検出した。

2．山王廃寺等Ⅴ遺跡



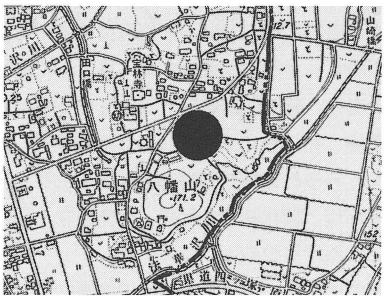
遺跡位置図（前橋市現形図2万分の1）

事業名　道路舗装改良工事（道路建設課）
所在地　前橋市総社町総社2399番地
調査期間　平成11年６月21日～７月７日
担当者　佐藤則和・平石和明
調査面積　120㎡
調査の経緯　平成11年５月７日付けで、道路建設課より、上記事業に伴う埋蔵文化財発掘調査依頼が提出された。当地周辺は過去の調査で遺跡地であることが確認されているので、同年６月21日付けで発掘調査の委託契約を締結し、調査の実施に至った。
立地　山王廃寺等Ⅴ遺跡は前橋市街地から利根川を隔てて北西約４㎞の総社町総社に所在する。周辺には国分寺をはじめ、国分尼寺、推定国府等の古代の中心となる施設があり、北東には総社二子山古墳をはじめとする総社古墳群がある。
概要　本調査地周辺は山王廃寺域内に位置し、過去に多くの発掘調査が行われ、大きな成果があった。今回の調査地点は寺域の中心部である塔、金堂から西に約50ｍほどの地点で、平成９年度に行われた下水管埋設工事の立ち会い調査の際に瓦、塑像片等が大量に出土し、「廃棄土抗」と考えられていた地点である。今回の調査では９年度に確認された廃棄土抗について本調査をするものであった。調査範囲が道路部分という限られた範囲であったため、範囲の北限は確認できなかったが、南限については道路に隣接する都丸保氏のご協力により、調査範囲を広げることができた。

調査の結果、９年度を上回る多量の塑像片、瓦、壁材片等が出土した。中でも塑像片は菩薩像や神将像等の多種多様な像部位の破片や塑像のまわりを飾っていたと思われる山岳部等が多数出土した。これらの塑像片は全国的にも例がなく山王廃寺に塔本塑像を伴う塔が存在していたことが考えられる。このことは全国的にも数少ない貴重な資料となった。

また、瓦についても大量に出土し、中でも文字瓦は多種の文字が検出された。

3．田口八幡Ⅰ遺跡



遺跡位置図（前橋市現形図2万分の1）

事 業 名　田口町土地改良事業
（田口土地改良事業共同施行）

所 在 地　前橋市田口町359番地他

調査期間　平成11年９月10日～12月３日

担 当 者　佐藤則和・平石和明

調査面積　1,100㎡

調査の経緯　平成９年５月９日、田口土地改良事業共同施行より、上記事業に伴う埋蔵文化財発掘調査依頼が提出され、確認調査の結果、遺跡地であることが判明。その後、平成11年９月10日付けで発掘調査の委託契約を締結し、調査の実施に至った。

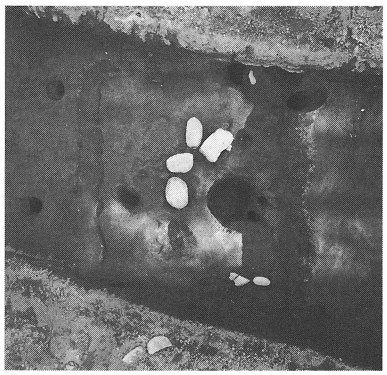
立地　田口八幡Ⅰ遺跡は前橋市街地から北へ約７㎞の田口町に所在し、富士見村、北橘村と接する。西には国道17号線と利根川が流れ、東には赤城山南麓の白川扇状地が広がり、扇状地を流れる小河川により谷地が形成されている。傾斜状の地形の中に孤立丘が多く見られ、本遺跡も孤立丘の台地状の地形の縁に位置する。また、西側の旧利根川流域にあたるところでは浸食による崖が形成されている。

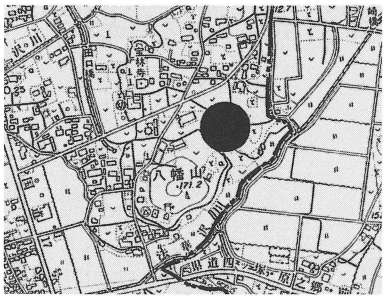
古墳時代　古墳を１基検出。後世の耕作による削平を受け、墳頂主体部、周堀のみ確認できた。墳頂主体部には石室に使われていたと思われる１ｍほどの石が動かされ積まれていたが、側壁の３個の石は残っていた。

古墳は推定径11.8ｍの横穴式石室の円墳で古墳時代終末期に構築されたと思われる。

平安時代　14件の住居跡を検出。時期は９世紀後半～11世紀初頭である。現耕作土の堆積が薄く、多くの住居跡の残存状態は悪かった。出土遺物は少なかったが、土師器・須恵器の坏・椀・灰釉陶器等のほか、土錘なども見られ、川に近い地域性が見られた。また、谷地状になっている地点ではローム層の上に自然災害等で堆積したと思われるＦＰ軽石混の黒色土が厚く堆積し、この層を掘り込んで住居跡が形成されていた。

4．田口八幡Ⅱ遺跡





遺跡位置図（前橋市現形図2万分の1）

事 業 名　田口土地改良事業
（農村整備課）

所 在 地　前橋市田口町436番地他

調査期間　平成11年10月20日～12月３日

担 当 者　佐藤則和・平石和明

調査面積　1,600㎡

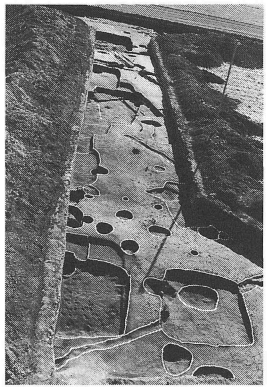
調査の経緯　平成11年９月７日付けで、農村整備課より、上記事業に伴う埋蔵文化財発掘調査依頼が提出された。隣接する田口八幡Ⅰ遺跡の確認調査で遺跡地であることが判明しているので、同年10月19日付けで発掘調査の委託契約を締結し、調査の実施に至った。

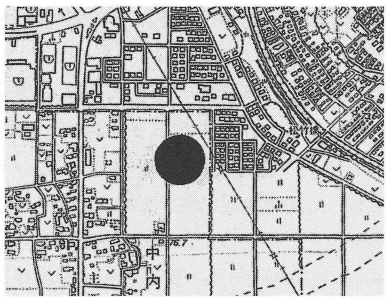
立地　田口八幡Ⅱ遺跡は前橋市街地から北へ約７㎞の田口町に所在し、富士見村、北橘村と接する。西には国道17号線と利根川が流れ、東には赤城山南麓の白川扇状地が広がり、扇状地を流れる小河川により谷地が形成されている。傾斜状の地形の中に孤立丘が多く見られ、本遺跡も孤立丘の台地状の地形の縁に位置する。また、西側の旧利根川流域にあたるところでは浸食による崖が形成されている。

平安時代　住居跡24軒を検出。９世紀前半から11世紀初頭の時期と考えられる。現耕作土の堆積が薄く、多くの住居跡の残存状態は悪かった。出土遺物はすくなかったが、土師器・須恵器の坏・椀・灰釉陶器、羽釜等が出土した。谷地状になっている地点ではローム層の上に自然災害等で堆積したと思われるＦＰ軽石混の黒色土が厚く堆積し、この層を掘り込んで住居跡が形成されていた。

これらの住居跡の中でもＨ－１号住居跡は、鍛冶工房跡と考えられる。住居内中央に石に囲まれた大きなピットをもち、中には鉄滓や鉄を加工した際のチップなどが堆積していた。ピットの脇には炉があり、使用した羽口の破片が多数出土した。

5．前田Ⅴ遺跡





遺跡位置図（前橋市現形図2万分の1）

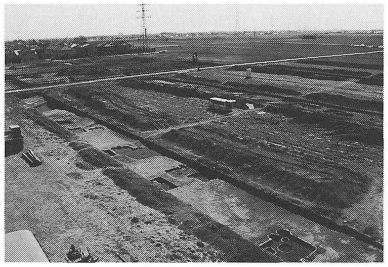
事 業 名　東善住宅団地拡張造成事業
所 在 地　前橋市中内町115番１外
調査期間　平成11年９月22日～12年３月24日
担 当 者　齊木一敏・山口宗男・吉沢　貴
調査面積　1,500㎡
調査の経緯　事業に先立ち、前橋工業団地組合（管理者　萩原弥惣治）より、道路予定地の埋蔵文化財調査の依頼があり、周辺遺跡の調査結果を踏まえて、本調査が必要であるということから、協議の結果、契約を締結し、本調査に入った。
立地　前橋市の南東部で、平坦な前橋台地の東端に位置する。利根川や広瀬川やそれらの支流が流れ、平らな土地と豊富な水から、以前は穀倉地帯であった。現在は、田畑が残っているものの、住宅や会社等が増え近くに北関東自動車道も建設されており、地域の市街化が進んでいる。
調査成果　現耕作土より約50cmほど掘り下げると浅間Ｂ降下（1108年、As－Ｂ）軽石混土層が検出され、その下より遺構面が確認された。土層や出土遺物から９世紀後半から11世紀前半の平安時代末期の集落跡と考えられる。検出された遺構は、竪穴住居跡47軒、溝36条、土坑73基、柱穴３基、井戸跡１基であった。

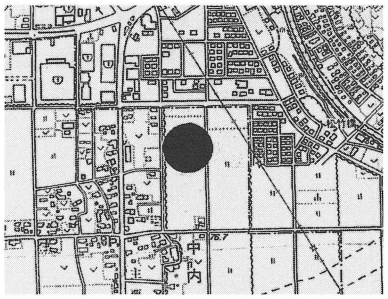
竪穴住居跡は重複が多く遺構確認に手間取ることもあった。竈（かまど）跡は29軒から検出され、すべて東壁に位置し、中央から南隅までの範囲から検出されている。そのうちの多くの竈（かまど）跡は支脚と袖に石を構築材として使用し、粘土で補強されていることが分かった。また、地山まで届く掘り方の上に地山の土や粘土を含んだ堅くしまった床面がほとんどの住居跡で見られた。湿った砂層の地山の上の竈（かまど）や床や壁に粘土を張り補強したものと考えられる。一つの住居では床面と壁面に粘土を何層にもして張り付け、補強している様子が窺えた。内部施設として貯蔵穴は６軒から検出されたが、柱穴についてはほとんど検出されなかった。

住居跡からの出土遺物は土師器の坏、埦、甕、羽釜、須恵器の埦、高台埦、高台皿、壺、甕、灰釉陶器の高台皿、高台埦、緑釉陶器の皿等である。これらから住居跡の時期は、９世紀終末から11世紀初頭の集落跡ということが分かった。

溝は近世、As－Ｂ降下後、降下以前のものがあり、土坑や柱穴はAs－Ｂ降下後中世と考えられるものが多かった。井戸跡についてはAs－Ｂ降下以前のものと考えられる。

6．前田Ⅵ遺跡

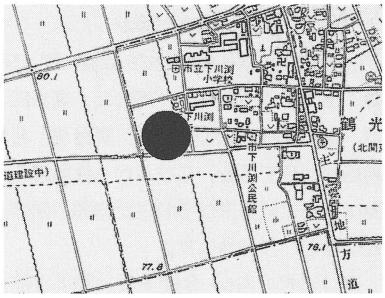




遺跡位置図（前橋市現形図2万分の1）

事 業 名　東善住宅団地拡張造成事業
（前橋工業団地造成組合）
所 在 地　前橋市中内町155番１外
調査期間　平成11年11月18日～12年３月15日
担 当 者　齊木一敏・山口宗男・吉沢　貴
調査面積　4,900㎡
調査の経緯　東善住宅団地拡張造成事業のため、埋蔵文化財発掘調査を前橋工業団地造成組合より前橋市教育委員会をとおして前橋市埋蔵文化財発掘調査団が受託したが、調査の都合上、スナガ環境測設㈱に業務委託した。住宅団地造成予定地の道路建設予定地が調査範囲のため、団地全体に渡ることから100ｍ×100ｍの大グリッドを組んでＡ区～Ｅ区までに大別し、その中を４ｍ×４ｍの小グリッドを組んで調査を実施した。
調査成果　検出した遺構は、住居跡66軒、水田跡及び痕跡２カ所、畦畔の高まりを４カ所検出した。溝は74条検出、柱穴（ピット）・土坑は15基を検出した。住居跡については、浅間Ｂ降下軽石（1108年As－Ｂ）混土層の下層より住居範囲が確認され、66軒検出された。住居跡には東壁側に竈（かまど）が作られているものが多く、その他に南東壁や南壁、一軒に２基の竈（かまど）を持った住居跡も検出された。出土遺物は羽釜片や高台埦、コの字状の口縁の甕片などが多く検出され、土層からも平安時代の住居跡と考えられる。水田跡はＢ、Ｄ区のAs－Ｂ軽石層が５cm前後堆積した範囲より計２カ所検出した。Ｄ区で東西方向の畦畔が２本検出された。検出した溝74条は平安時代から中世以降、近代以降にあたるものと思われる。その中で、堆積土層や方向などから同じ溝と思われるものもあり、特にAs－Ｂ軽石で埋まった溝や耕地改良工事前まで使用されていた溝などを検出した。また、As－Ｂ軽石で埋まっている北西から南東方向に位置する大、小の溝は調査区の中心付近に位置し、両側に住居跡が検出され、さらに水田跡もその外側にあることから、これらの溝を挟んで集落を形成していたことが考えられ、水田跡とのつながりも推測される。柱穴（ピット）・土坑はＡ、Ｂ、Ｅ区で検出された。その中でＢ区の柱穴は、水田の痕跡のあるAs－Ｂ軽石の堆積する範囲で検出されている。また、土坑は単独で検出され、Ｄ－３からは遺物も検出された。

7．横手湯田Ⅵ遺跡



遺跡位置図（前橋市現形図2万分の1）

事業名　都市計画道路　横手鶴光路線道路改良事業

所在地　前橋市鶴光路町89番地４他

調査期間　平成11年５月28日～12年３月24日

担当者　齊木一敏・山口宗男・吉沢　貴

調査面積　約2,857㎡

調査の経緯　事業に先立ち、前橋市長　萩原弥惣治より、道路拡張予定地の埋蔵文化財調査の依頼があり、周辺遺跡の調査結果を踏まえて、本調査が必要であるということから、協議の結果、契約を締結し、本調査に入った。

立地　前橋市の南部で平坦な前橋台地に位置する。利根川やその支流が流れ、平らな土地と豊富な水から、以前は穀倉地帯であった。現在は、田畑が残っているものの、住宅や会社等が増え近くに北関東自動車道も建設されており、地域の市街化が進んでいる。

調査成果　長さ約１㎞に及ぶ幅約1.3～8.3ｍの細長い調査区となった。５つのブロックに分けて調査した。

Ａ区　現耕作土より約30㎝ほど掘り下げると、浅間Ｂ（1108年、Ａｓ－Ｂ）降下軽石純層又はＡｓ－Ｂ混土層が検出され、平安時代の遺構面が検出された。しかし、後世の耕作や土地改良等により遺構が壊されている部分が多かった。遺構としては、畦畔３条、溝２条だけであった。古墳時代の遺構面も確認できたが、溝１条にとどまった。

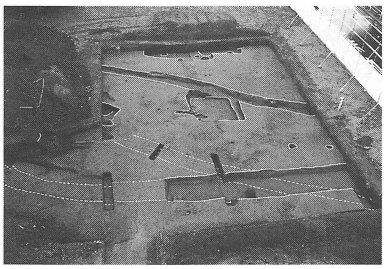
Ｂ区　耕作土より約50㎝程掘り下げると、平安時代の遺構面が確認された。現耕作土直下より遺構面が検出され、Ａｓ－Ｂ軽石純層、Ａｓ－Ｂ軽石混土層が飛ばされていた。Ａｓ－Ｂ降下以前と考えられる遺構は溝３条、土坑５基にとどまった。

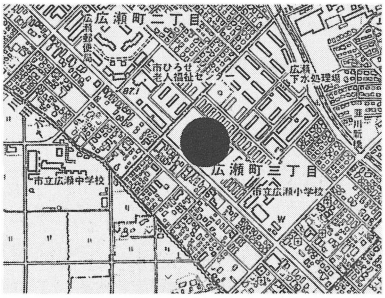
Ｃ区　現耕作土より約50㎝掘り下げるとＡｓ－Ｂ軽石純層が約６㎝堆積しており遺構の残りが良かった。Ａｓ－Ｂ降下以前の遺構として、水田跡11枚、畦畔23条、水口６箇所、耕作痕２箇所、中世の掘立柱建物の柱穴になると思われる柱穴が41基検出された。

Ｄ区　トレンチ調査となった。新しい溝３条、中世の洪水層で埋まった溝２条、Ａｓ－Ｂ降下以前の足跡遺構が検出された。

Ｅ区　この調査区も狭いためトレンチ調査となった。現耕作土より約30㎝下より浅間Ａ（1783年Ａｓ－Ａ）降下軽石を埋め込んだ溝状遺構を検出し、約70㎝下からは畦畔を１条検出した。

8．上川淵鶴巻Ⅱ遺跡





遺跡位置図（前橋市現形図2万分の1）

事業名　公営住宅建設に伴う発掘調査

所在地　前橋市広瀬町三丁目20他

調査期間　平成11年９月20日～10月５日

担当者　眞塩明男・飯田祐二

調査面積　約400㎡

調査の経緯　広瀬第五団地公営住宅建設に伴う事前の発掘調査である。９月３日に事前の試掘調査を行ったところ、古墳時代の遺構及び遺物が確認されたため、本調査を前橋市埋蔵文化財発掘調査団が実施した。

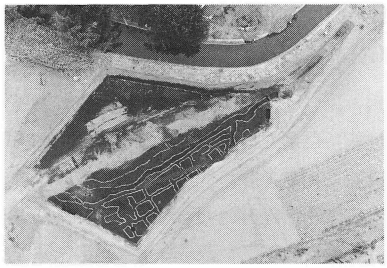
立地　前橋市街地より東南へ約５㎞の前橋台地の北東縁、朝倉・広瀬・山王に続く旧利根川右岸の河岸段丘上に位置する。この高まりは、県内でも有数の古墳分布地帯である朝倉・広瀬古墳群であり、本遺跡はその中央にあたる。

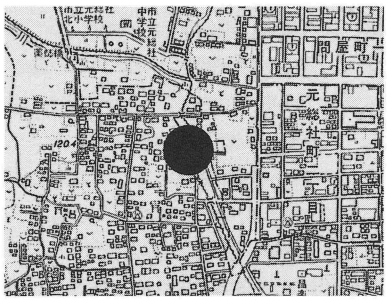
遺跡の概要　古墳時代の住居跡４軒と溝３条を検出した北西部と同時代の溝を検出した南東部の２つの調査区に大別される。

４軒の住居跡はいずれも７世紀中頃から８世紀初頭頃のものである。１号住居跡と２号住居跡は重複し、１号住居跡の方が古い。２号住居跡は、北東竈（かまど）の袖を円筒埴輪で補強していた。古墳の埴輪が、一世紀ほどで住居に使用されていることは、当時の人々の古墳や埴輪に対する心性を考える上で興味深い。３号住居跡は、完掘できた唯一の住居跡で、南西竈（かまど）の袖を川原石と粘土で補強し、煙道は川原石の石組みで構築していた。

南東部の溝は、走行が南東から北西方向のもので、上端約2.5ｍ、下端約1.5ｍ、深さ約50㎝で底部はほぼ平らである。器高約１ｍの大甕を含む須恵甕11点・須恵器台・須恵長頸壺・須恵坏・須恵円面硯・土師坏など豊富な遺物が見つかった。廃棄されたと考えられる出土状況で、丁寧な作りや遺物の種類、量から一般の集落跡ではなく、官衙関係の遺構とも考えられる。埋土にＨｒ－ＦＰを含むことから、この溝は６世紀後半以前に掘られたものと考えられる。

9．総社閑泉明神北遺跡





遺跡位置図（前橋市現形図2万分の1）

事 業 名　元総社蒼海土地区画整理事業

所 在 地　前橋市総社町総社字閑泉明神北3614－１番地他

調査期間　平成12年１月12日～３月21日

担 当 者　井野誠一・長谷川一郎・大越直樹（山武考古学研究所）

調査面積　2,062㎡

調査の経緯　元総社蒼海土地区画整理事業に先立ち牛池川河川改修部分について区画整理第二課より発掘調査の依頼を受け実施した。前橋市埋蔵文化財発掘調査団の指導のもとに山武考古学研究所が実施した。

立地　前橋市の西端を南東流する牛池川左岸に位置し、西に群馬町が隣接する。本遺跡の北約２㎞には国指定史跡である総社二子山古墳などの総社古墳群が存在する。また、周辺は国府域として古代上野における政治・文化の中心地であり、国分寺や山王廃寺なども至近に位置している。

調査成果　調査区は度重なる洪水による土砂・砂礫の堆積、河川浸食等により複雑な土層状態にあった。示標テフラは下位より浅間Ｃ軽石、榛名二ツ岳渋川テフラ（Ｈｒ－ＦＡ）が認められたが、1108年降下の浅間Ｂ軽石層は確認されなかった。検出された遺構・遺物は縄文時代から中・近世に及ぶが、文化層として把握できたのは、浅間Ｃ軽石下・Ｈｒ－ＦＡ下・表土下の３面であり、さらに浅間Ｃ軽石とＨｒ－ＦＡ間の土層中においても遺物の包含を確認している。

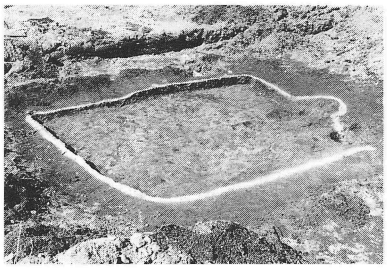
浅間Ｃ軽石もしくはその混土層下は起伏の激しい地形にあり、水田跡は検出されなかったが、畠跡と思われるサク状の溝３条を確認している。これらは、ほぼ等間隔に並列し、東西方向に走行する。また、他の溝からは古式土師器や木製品及び流れ込みの縄文土器が出土している。

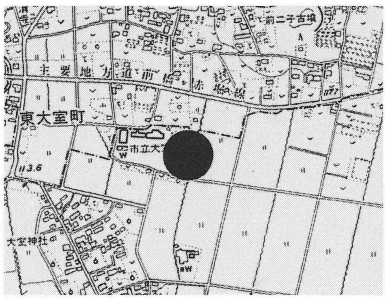
Ｈｒ－ＦＡ下からは小区画水田跡が検出され、南北方向の大畦畔とそれに沿う水路も確認された。水田面からは木坑と籾殻が検出されている。なお、本水田跡下から浅間Ｃ軽石までの土層中からは古墳時代を中心とする遺物が出土している。

平安時代と思われるＨ－１号住居跡は竈（かまど）と床面のごく一部が残存しているのみで、明確な平面形状は把握できなかったが、羽釜の出土がみられた。

中世墓とみられる23号土坑には礫が敷くように置かれており、その中には五輪塔や石臼もみられた。五輪塔の地輪には「文明四年（1472年）」の紀年銘と金泥を施した凡字（キリーク）が刻まれていた。

10．大室小学校校庭Ⅳ遺跡





遺跡位置図（前橋市現形図2万分の1）

事 業 名　大室小学校プール改築工事

所 在 地　前橋市東大室町763番１ほか

調査期間　平成11年５月20日

担 当 者　眞塩明男・佐藤則和

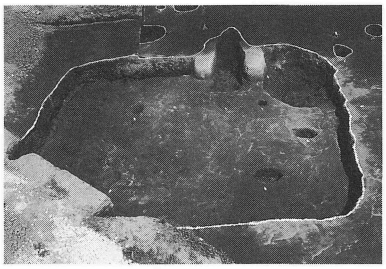
調査面積　100㎡

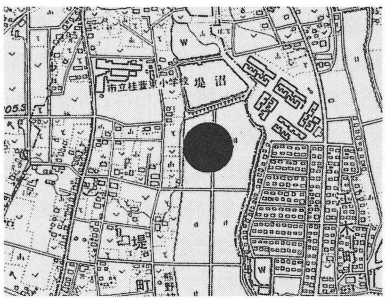
調査の経緯　大室小学校プール改築工事に先立ち前橋市教育委員会総務課から試掘調査の依頼を受け、平成11年４月27日に試掘調査を実施したところ、住居跡１件を確認した。その後の協議の結果、住居跡を確認した部分を記録保存のため発掘調査を実施することとなった。５月７日付けで総務課から発掘調査の依頼が提出され、５月20日に発掘調査を実施した。

立地　前橋市の東端、赤城南麓の舌状台地の末端部に位置し、北に粕川村、東に赤堀町に接している。調査地周辺には西側に隣接する大室小学校用地内にある大室小学校校庭遺跡、北側に荒砥上諏訪遺跡など古墳時代の集落跡が確認されている。

調査の成果　確認された住居跡は壁高５㎝程度しか残っておらず、上部をほとんど削り取られた状態で検出された。竈（かまど）もほとんど破壊されていたが、焼土や竈（かまど）の袖を補強したと思われる粘土などから東竈（かまど）と思われる。僅かに出土している遺物から古墳時代の住居跡と思われる。調査地は大室小学校が立地する丘陵の東端に位置していた。調査前は宅地であり、宅地造成の際に丘陵末端の傾斜を削り、整地したようである。今回確認された住居跡は削平が浅い部分だったためにかろうじて残存していたようである。

11. 堤沼下遺跡





遺跡位置図（前橋市現形図2万分の1）

事 業 名　ローズタウン住宅団地造成事業

所 在 地　前橋市堤町８番他

調査期間　平成12年２月22日～３月24日

担 当 者　井野誠一・眞塩明男・金子正人（スナガ環境測設株式会社）

調査面積　6,013㎡

調査の経緯　ローズタウン住宅団地造成事業に先立ち工業課より堤町造成分の試掘調査の依頼を受け、試掘可能箇所で試掘調査を実施したところ、事業予定地の東側半分で旧河川と湿地が、西側半分からはローム面を掘り込んだ住居跡や土坑、溝などが確認された。その後、道路計画などが確定し、協議の結果、遺構が確認された西側半分の道水路部分の発掘調査を実施することとなった。前橋埋蔵文化財発掘調査団の指導のもとにスナガ環境測設株式会社が実施した。

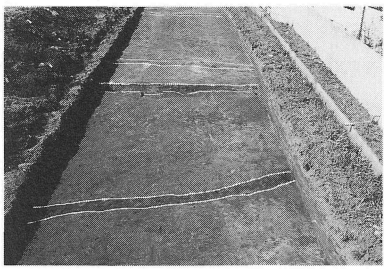
立地　県庁・市役所の所在する市街地より東へ6.5㎞地点に位置し、付近は赤城南麓斜面の緩傾斜地であり、山麓に源を発する中小河川によって南北に細長い舌状台地と谷地を形成している。

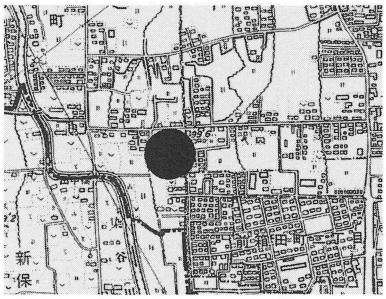
調査の概要　前期縄文土器（黒浜・諸磯式）464点、中期縄文土器22点、石器は石鏃10点、石槍１点、分銅型石斧４点、短冊形石斧10点、撥型石斧４点が出土した。遺構では土坑が確認されている。

奈良・平安時代　住居跡３軒、竪穴状遺構１軒、掘立柱建物跡１棟が検出された。１号住居跡からは土器片が僅かに検出された。２号住居跡は復元可能な遺物が多く検出された。３号住居跡は竈（かまど）の残存状況が良く、土器片は多く検出されたが小破片で復元可能なものが少なかった。竪穴状遺構、掘立柱建物跡も同時期の可能性が高い。浅間Ｂ軽石で覆われた水田跡の一部が検出された。水田跡は確認された範囲が狭いため畦畔は確認できなかったがプラントオパール分析で稲作の可能性が確認された。

その他の遺構・遺物について　土坑が283基、柱穴96基、風倒木痕54ケ所、井戸跡12ケ所、溝15ケ所が確認された。この溝のうち調査区西寄りの大溝からは縄文時代から近・現代に至る遺物が多量に堆積していた。上記の縄文時代の遺物もその半数以上が溝から検出されたものである。この溝からは中世の内耳鍋（ないじなべ）、焙烙（ほうろく）、擂鉢（すりばち）、そして２点ではあるが瓦塔が検出された。また、近代から昭和までの陶磁器も含まれていた。

12. 江田下り柳（さがやなぎ）遺跡





遺跡位置図（前橋市現形図2万分の1）

事 業 名　民間開発（宅地分譲）

所 在 地　前橋市江田町字下り柳171－１

調査期間　平成11年４月15日～23日

担 当 者　飯田祐二・眞塩明男

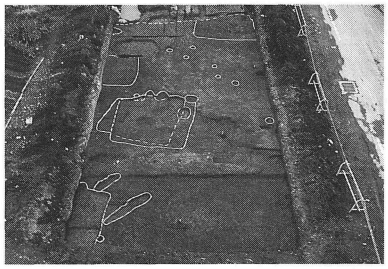
調査面積　150㎡

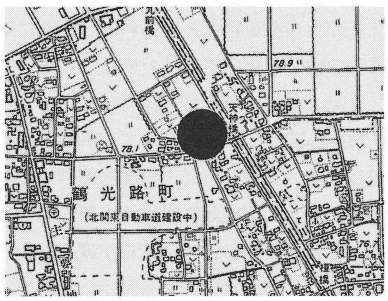
調査の経緯　平成10年３月開発業者より上記事業に伴う埋蔵文化財確認調査依頼が提出され、同年４月の確認調査を実施した。その結果、平安時代の水田跡が予定地の一部で確認されたため、協議の結果、遺構が検出された道路部分を対象とした発掘調査を前橋市教育委員会が実施することとなった。

立地　前橋市街地の南東約３㎞に位置する。利根川右岸の前橋台地上にあり、周辺は、古代の土地区画制度である条里制地割りのよく残る地域である。周辺でも、すぐ北側を東西に通る道は「東道：あずまみち」と呼ばれ、一町（約109ｍ）ごとの大畦畔と想定されている。

調査の概要　天仁元年（1108）、浅間山の噴火に伴う浅間Ｂ軽石（Ａs－Ｂ）下の水田跡を確認した。現地表面下約30㎝で厚さ約10㎝のＡs－Ｂを確認した。その下の水田遺構面は、暗褐色粘質土でほぼ平坦でやや南に傾斜していた。11ｍ間隔で東西方向に走る２本の畦畔とその南に約７ｍ間隔で同方向に走る溝を２本検出した。畦畔はともに基底部分の幅約60㎝・高さ約３～９㎝であった。溝は、北側のものが南側の畦畔から２ｍ南で上端約70㎝・深さ９～15㎝、南側のものが上端約50㎝・深さ９㎝でいずれもＡs－Ｂ降下以後に掘られたものである。

13-1. 鶴光路榎橋II遺跡





遺跡位置図（前橋市現形図2万分の1）

事 業 名　北関東自動車道側道道路改良事業
所 在 地　前橋市鶴光路町277－１他
調査期間　平成11年５月12日～11月８日
担 当 者　吉田聖二・小峰　篤
調査面積　398㎡
調査の経緯　北関東自動車道建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査は平成７年度より、群馬県埋蔵文化財調査事業団が本線部分の調査を開始し現在に至る。

本発掘調査は北関東自動車道側道道路改良事業に先立って実施されたものである。前橋市長（北関東自動車道対策室）より、当該事業に伴う発掘調査の依頼が前橋市教委に提出された。これを受け、市教委の組織する前橋市埋蔵文化財発掘調査団がこれを実施することとなった。

側道建設に伴う発掘調査は平成９年度から始まり、本年度で３年目となる。

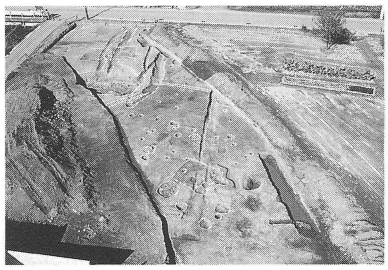
立地　本遺跡は前橋市南部、中心市街地の南東約７kmの洪積台地（前橋台地）上に立地する。標高は約78ｍである。遺跡の東側には広瀬川から分流した端気川が南流する。端気川左岸の徳丸高堰遺跡を始め、周辺には横手湯田遺跡、村中遺跡、西田遺跡、徳丸仲田遺跡、西善尺司遺跡などが存在する。

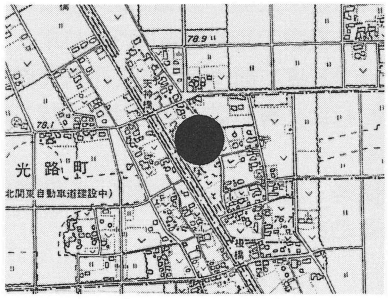
調査成果

平安時代　竪穴住居跡10軒、土坑２基、溝１条が検出された。竈（かまど）が確認された住居は８軒で、全て東壁に設置される。遺物は土師器の甕、坏、須恵器の甕、碗、坏、皿、灰釉陶器の碗、皿などが出土した。これらの遺物から、検出された遺構群は９世紀後半の集落を形成するものと考えられる。それ以前のものは遺構、遺物とも認められず、調査地点の土地活用は９世紀代に生活域としての利用が開始されたと想定される。

その他　近世以降のものと考えられる溝３条、土坑１基が検出された。これらは純然たるテフラ層下の遺構でなく、時期決定の指標となる遺物も乏しいため、明言はできないが、遺跡地の所在する前橋南部地域は環濠屋敷を始めとする中・近世の遺構の多い地域であり、当該期のものである可能性は高い。

13-2. 徳丸高堰III遺跡





遺跡位置図（前橋市現形図2万分の1）

事 業 名　北関東自動車道側道道路改良事業
所 在 地　前橋市徳丸町23－１他
調査期間　平成11年５月12日～11月８日
担 当 者　吉田聖二・小峰　篤
調査面積　893㎡
調査の経緯　北関東自動車道建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査は平成７年度より、群馬県埋蔵文化財調査事業団が本線部分の調査を開始し現在に至る。

本発掘調査は北関東自動車道側道道路改良事業に先立って実施されたものである。前橋市長（北関東自動車道対策室）より、当該事業に伴う発掘調査の依頼が前橋市教委に提出された。これを受け、市教委の組織する前橋市埋蔵文化財発掘調査団がこれを実施することとなった。側道建設に伴う発掘調査は平成９年度から始まり、本年度で３年目となる。

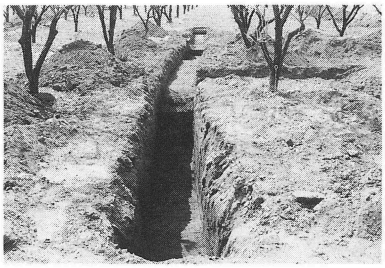
立地　本遺跡は前橋市南部、中心市街地の南東約７kmの洪積台地（前橋台地）上に位置する。標高は約78ｍである。遺跡の西側には広瀬川から分流した端気川が南流する。端気川右岸の鶴光路榎橋遺跡を始め、周辺には横手湯田遺跡、村中遺跡、西田遺跡、徳丸仲田遺跡、西善尺司遺跡などが存在する。

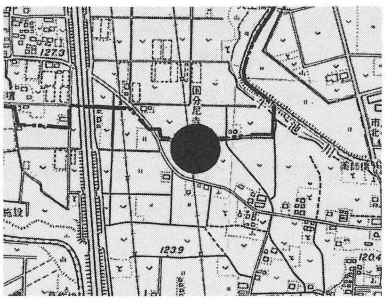
調査成果

平安時代　竪穴住居跡５軒、掘立柱建物１棟、溝７条、土坑２基、落ち込み等が検出された。住居跡は遺物から９世紀後半の所産と考えられる。特色ある遺構としてはW－７号溝があり、周辺の溝群が流れ込む大規模な溝で、断面U字形を呈し、幅3.28～4.94ｍ、深さ66～94cm、確認長6.27ｍで調査区外に延びる。水の流し込み口付近の底部及び側壁から、補強に用いたと考えられる多量の石が検出された。

中・近世　溝６条を検出。W－１号溝はL字形に走行し、断面U字形を呈する。遺物は北宋銭（熙寧元宝）、火鉢、擂鉢、土師質皿、砥石などが出土。W－２号溝からは内耳鍋、陶器類、砥石、五輪塔の空風輪・水輪、石臼、景徳鎮窯系の青花皿などが出土。W－５号溝は薬研堀で鉤の手状に走行する。土橋状に隆起する箇所もあり、本地域に多い環濠屋敷の濠の一部である可能性が高い。遺物は、尾呂碗、灰釉丸皿、菊皿など瀬戸・美濃系陶器、京焼風陶器碗、三島手の鉢など肥前唐津系陶器、内耳焙烙、土師質皿など在地産の土器が出土。本遺構と併走するW－３号溝からは灰釉碗、灯明油受皿、蓋など瀬戸・美濃系陶器が出土。

14. 上野国分尼寺寺域確認調査





遺跡位置図（前橋市現形図2万分の1）

事業名　元総社蒼海土地区画整理事業
所在地　前橋市元総社町字小見1730他
調査期間　平成12年３月14日～３月18日
担当者　眞塩明男・飯田祐二・佐藤則和・小峰　篤・平石和明
調査面積　218㎡
調査の経緯　元総社蒼海土地区画整理事業実施に先立ち県内でも重要な遺跡である上野国分尼寺の前橋市内分の寺域を確認する必要が生じた。そこで、平成12年３月７日付けで区画整理第二課から発掘調査の依頼が前橋市埋蔵文化財発掘調査団に提出され、３月14日に発掘調査を開始した。
立地　前橋市街地から利根川を隔てて、西約３㎞の地点、前橋市と群馬町との境に位置する。榛名山東南麓の染谷川と牛池川に挟まれた低台地上にあり、すぐ北側では講堂跡・金堂跡・中門跡が確認されている。現在でも推定地は、周辺より僅かに高い地形を形成している。
調査の概要　今回の調査はトレンチ調査ながら今まで解明されていなかった上野国分尼寺の寺域南限を確定することができた。

前橋市と群馬町の境の農道下から築垣の削り出し部が検出された。築垣の南には大溝が廻り、その外側には東西に走行する道路が設けられたことが明らかとなった。築垣削り出し部は多少の出入りはあるもののほぼ東西方向であった。大溝は逆台形に掘り込まれており、底面はほぼ平坦であった。道路面は瓦片を敷き詰めている部分があり、地面に食い込むよう踏み固められていた。上野国分僧寺との関連で見ても南辺築垣下に大溝を廻すことは共通しており、その南に平坦な部分がくることからすると、この東西道路は西の僧寺と連絡している可能性がある。また、最も東側のトレンチではこの道路を破壊してつくられている竪穴住居跡が検出された。住居跡の時期は出土遺物などから10世紀初頭とみられ、この頃には道路の機能を失っていたと考えられる。

今回は南限の確認を目的としてトレンチを設定し調査した。先だって群馬町教育委員会によって行われた上野国分尼寺北辺遺跡調査では、推定北限付近から築垣様の瓦堆積部分及びその外側に廻る小溝を検出している。この部分を北限と想定し今回の調査結果を南限とするとほぼ２町（１町＝109ｍ）となることから、上野国分尼寺の南北方向の寺域規模は２町とみて誤りはないと思われる。

15. 市内遺跡発掘調査

事業名　埋蔵文化財発掘調査事業（市内遺跡発掘調査事業）
所在地　前橋市内
調査期間　平成11年４月１日～12年３月31日
担当者　眞塩明男・飯田祐二
調査面積　2,358㎡
調査の概要　平成11年度は28件の確認調査を実施した。そのうち７カ所で遺跡が確認された。７遺跡のうち３遺跡は現状保存が不可能のため11年度中に発掘調査を実施し記録保存を行った。１遺跡は12年度に発掘調査予定であり、３遺跡は保存協議を締結し現状保存された。
調査の結果　江田町所在の江田下り柳遺跡では浅間Ｂ軽石層下から平安時代の水田跡が検出された。東大室町所在の大室小学校校庭Ⅳ遺跡では古墳時代の住居跡が検出された。広瀬町三丁目所在の上川淵鶴巻Ⅱ遺跡では古墳時代終末期の遺物が大量に検出された溝跡と古墳時代の住居跡が検出された。宮地町所在の宮地内田遺跡では浅間Ｂ軽石層下から平安時代の水田跡が検出された。総社町高井所在の総社高井十郎遺跡では奈良時代の遺物を伴う住居跡が検出された。石関町所在の石関西田遺跡では奈良時代の遺物を伴う住居跡が検出された。青柳町所在の青柳宿前（しゅくまい）遺跡では平安時代の遺物を伴う住居跡が検出された。
発掘調査　江田下り柳遺跡、大室小学校校庭Ⅳ遺跡は平成11年度に前橋市教育委員会で発掘調査が行われた。上川淵鶴巻Ⅱ遺跡は平成11年度に前橋市埋蔵文化財発掘調査団で発掘調査が行われた。青柳宿前遺跡は平成12年度に発掘調査予定である。
保存協議　宮地内田遺跡、総社高井十郎遺跡、石関西田遺跡は現状保存されることとなった。

16. 遺跡調査会調査

遺跡調査会調査は、前橋市内における国・県の開発事業に先立つ埋蔵文化財発掘調査であり、県教育委員会が中心となり遺跡調査会を設立し、市教育委員会も役員として参加している。発掘調査は民間業者に委託し、遺跡調査会の指導の下、実施している。なお、事務手続きの一部と出土遺物の管理は市教育委員会で行っている。

平成11年度は、大友町西通線遺跡調査会により都計道大友町西通線街路事業に伴う高井桃ノ木遺跡の整理作業が行われ、発掘調査報告書が刊行された。

5．遺跡台帳整備事業

事 業 名　遺跡台帳整備事業
事業期間　平成11年４月１日～12年３月31日
担 当 者　飯田祐二

（１）　遺跡台帳整備

年間を通じて市内での発掘調査や各種確認調査の資料を整備し、それを元にして遺跡の資料を台帳化している。その資料を各種開発の対応に使用している。

（２）　資料整備

出土した土器などの遺物資料の整理で、大室神社所蔵の大室古墳出土の鉄器類実測を行った。また、芳賀北部団地遺跡出土の土器で活用可能なものの復元を行った。

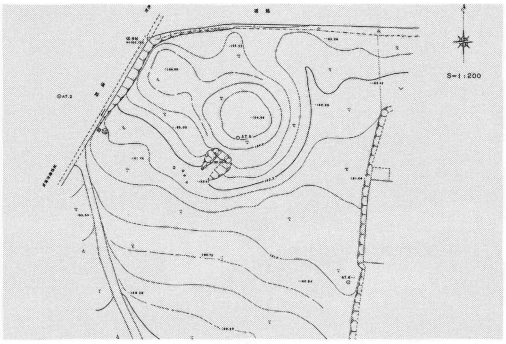
（３）　小中学校資料活用支援

学校への資料貸し出しは、天川小学校・下川淵小学校・桃瀬小学校・荒牧小学校・荒子小学校・二之宮小学校の６校に行った。資料展示支援としては、荒牧小学校の「あらまき博物館」の教室移動に伴って資料室整備と展示替えを行った。これは12年度以降も継続する予定で準備をしている。

荒牧小学校「あらまき博物館」展示の様子

（４）　遺跡測量

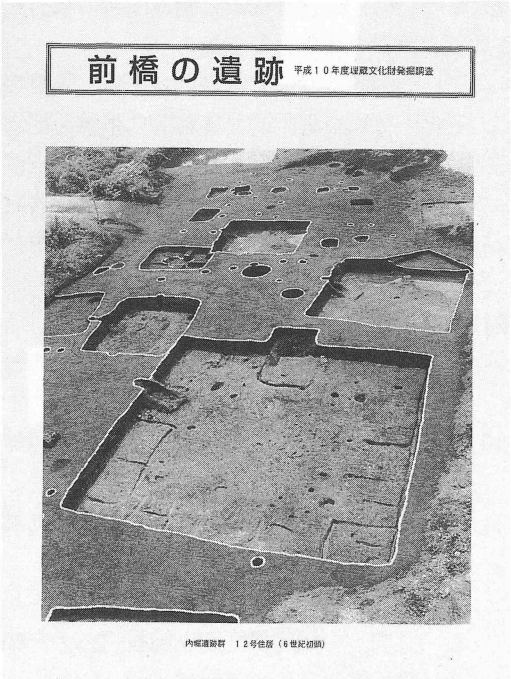
重要史跡等の測量を行っている。11年度は、６世紀後半に作られた前方後円墳で、市指定史跡である勝沢町のオブ塚古墳の測量を行った。



オブ塚古墳実測図

（５）　普及パンフレットの作成

平成10年度発掘調査の成果を市民向けにまとめたパンフレット「前橋の遺跡」を作成し、配布した。10年度は、内堀遺跡群ＸＩの大型住居跡を中心に９遺跡の概要をまとめて作成した。



（６）　遺物の公開・展示

11年度に山王廃寺の発掘調査で大量の塑像・塑壁・文字瓦等が出土した。新聞等に大きな扱いで載り、大きな反響があった。それを受け、塑像等の一般市民への公開が８月23日～27日に市役所１階のロビーで実施された。それにあわせて、市役所１階のガラスケースに山王廃寺出土の平瓦・軒丸瓦を展示し、山王廃寺についての解説展示を行った。

（７）　緊急雇用対策による資料整備

群馬県緊急地域雇用特別基金の交付を受け、発掘調査資料の整理を行った。２年計画の１年目として実施され、整理は雇用対策という観点から民間業者へ委託して行われた。

整理は、これまでの発掘調査で出土した約１万箱の発掘調査資料（土器・石器などの遺物）のうち三分の１を再整理するものである。再整理の内容は、遺物の報告書掲載の有無によるものと、掲載されていなくても活用可能であるかという観点から整理し直すものである。そして、遺物を活用台帳化し、報告書とともに検索可能な状況にするものである。これによって、遺物・資料の検索・貸し出しが以前より容易になった。あわせて写真・図面・報告書も再整理、デジタル化した。12年度は、残りの遺物・資料の整理を行う予定である。

６．大室公園史跡整備事業

（１） 大室公園史跡整備委員会

大室公園史跡整備事業の推進に当たり、その万全を期するために学識経験者及び関係職員で組織された史跡整備委員会を中心に、整備計画及び整備内容の検討を十分に行った上で事業を実施してきた。

また、詳しい内容については別記したが、委員会開催と共に、その下でより専門的、実務的な事業を担当する専門部会（古墳整備部会、民家変遷部会、資料館部会）についても、事業内容に応じて、部会開催及び連絡調整を図りながら具体的事業内容の検討に当たってきた。

○平成11年度大室公園史跡整備委員会の経緯

平11．４．27…文化庁への平成11年度事業内容の報告と変更許可確認

10.21…文化庁への平成11年度事業報告と12年度事業計画説明

11.18・19…第24回全国遺跡環境整備会議において大室公園史跡整備事業の概要報告

平12．２．９…大室公園史跡整備部会長会議開催

２.22…国立歴史民俗博物館副館長白石太一郎氏への平成11年度事業経過説明

２.25…平成11年度大室公園史跡整備委員会開催（通算13回目）

委員会風景

（２） 古墳整備部会

国指定史跡大室４古墳の整備に関しては、後二子古墳を皮切りとして、平成９年度より国庫補助事業として整備工事に着手した。３年目に当たる今年度は、後二子古墳整備（平成９年度～11年度）の石室修理を中心とした最終年次工事、中二子古墳整備（平成10年度～12年度）の２年次事業として中堤復元を中心とした整備工事に着手、さらに前二子古墳整備（平成11年度～13年度）の初年度事業として実施設計の作成を行った。

また、中二子古墳整備に向けての詳細データを得る目的で、未調査のため、情報量がやや希薄な、石室が存在すると想定される部分について、昨年度実施したレーダー探査に引き続き、今年度は、より深い部分まで状況把握のできる電気探査を実施した。

○後二子古墳整備工事概要

［石室修理］
- 羨門部石積み解体修理
- 積み石亀裂充填
- 裏込空洞部充填材注入
- 石室安定度計測機器設置
- 遺構保護用石室内人止め腰壁、羨門部ワイヤースクリーン設置

［前庭部復原］
- 土質舗装による墓道復原
- レプリカによる円筒埴輪列復原
- 土器等出土遺物レプリカ展示

［墳丘整備］
- 表土すき取り保護盛土後、種子混合客土による吹付植栽
- 見学用園路及び階段の設置

［周堀整備］
- 表土すき取り後、保護用採石基礎及びバークマルチング敷設

［説明施設］
- 図解施設、解説施設の設置

後二子古墳整備状況

後二子古墳石室前庭部整備状況

○中二子古墳整備工事概要

［墳丘整備］　・墳丘樹木の枯木・劣性木を中心とした間伐

［中堤整備］　・中堤削平箇所は、基礎部分に採石層を敷いた上に版築盛土による修形を行った後、吹付植栽（全長約90ｍ、底部幅約16ｍ、上部幅約4.2ｍ高さ約2.6ｍ）

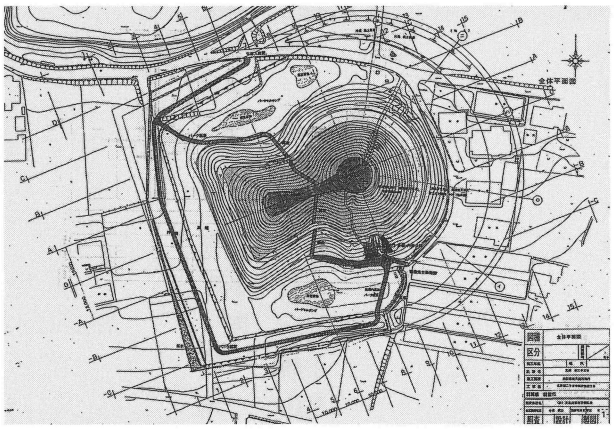
・既存の中堤部分は、表土すき取り保護盛土後、吹付植栽

［周堀整備］　・堀底に溜まった土砂すき取り、修理

・中堤復元箇所の基礎に敷設した採石層内にパイプを通して内堀と外堀を連結した後、外堀から古墳外への雨水排水施設設置

中二子古墳中堤整備状況

○前二子古墳整備実施設計



前二子古墳実施設計

○平成11年度古墳整備部会の経緯

平11.５.17…第１回部会開催

９.20・21…中二子古墳石室電気探査実施

11.16…第２回部会開催

平11.12.６…後二子古墳整備に向けての補足調査として前庭部西側埴輪列調査を実施

12.１.25…第３回部会開催

（３）　資料館部会

大室古墳資料館（仮称）建設に向けて、これまでに完了している展示に関する基本設計に引き続き、大室公園史跡整備事業事務局を中心に、今後予定されている展示実施設計、及び資料館家屋の基本設計に向けての準備作業を実施した。

さらに、大室４古墳発掘調査、及び大室公園整備地内の施設建設に先行する発掘調査（内堀遺跡群発掘調査）等によって得られた膨大な出土遺物資料の未整理分について、将来、資料館への収蔵を予定し、平成９年度より開始した整理作業を継続して行った。

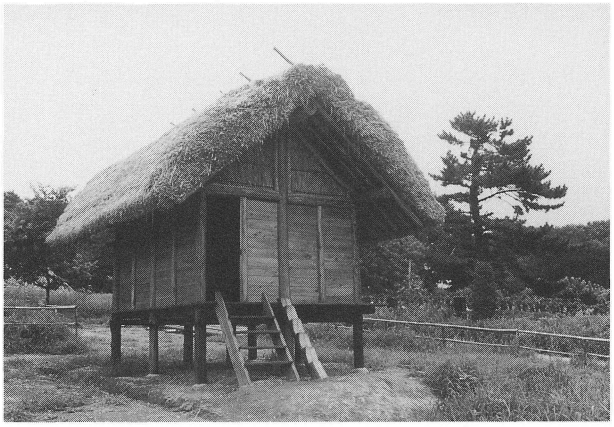
（４）　赤城型民家園運営及び古代住居建設

○民家園運営

平成11年度の民家園の見学者数は、約5,200名を数えた。見学者の内訳を見てみると、児童生徒の割合が最も多く、市内の小中学校に加えて市外の学校からの見学もかなりの数にのぼった。また、民家園運営の新しい動きとしては、南に広がる畑を利用して、地元の大室小学校児童と民家保存会の会員とでサツマイモを植え、その収穫をともにしたり、地元の方からお茶の木をいただいて移植するなど、地域に密着した活動が芽生えてきた。

○古代住居建設

古代住居エリアにおいて、平成10年度より12年度までの３年計画で、古代住居３棟の建設を進めている。市内の児童生徒に呼びかけ、建設作業への参加者を募り、文化財保護課職員指導の下、古墳時代の人々の生活の様子を理解する体験学習の一環として、昨年の竪穴式住居に引続き、今年度は高床式建物を完成させた。



高床式建物

あ と が き

ずっと先のことのように感じていた21世紀の幕が開くのも間近となりました。現代社会は、これから先、いったいどのような変化を遂げていくのでしょうか。

わたしたちが、激しく変化する社会を見つめ将来を見通そうとするとき、いつの間にか、過去の経験や実績によってものを考えたり判断していることに気づかされます。まさに、これらの蓄積が文化財であり、歴史です。文化財には先人の知恵や優れた技術などが凝縮されています。わたしたちが、こうした文化財を日々の生活に取り入れ活用することによって、思いがけなく、今後の指針を得たり豊かな気持ちになったりするかもしれません。

さらに、こうした遺産を後世に守り伝えることが、現代に生きる者の一つの役目ではないでしょうか。

平成11年度も本課では文化財の調査・整備・保存・活用の進展のため、さまざまな活動を展開してまいりました。その概要をまとめた本書が、より多くの方々に読まれ活用されるならば、任にあった者の喜びとするところです。

平成12年９月

文化財保護課長　　石川　克博

平成11年度
前橋市文化財調査委員
阿久津宗二
梅澤　重昭
近藤　義雄
松島　榮治
安盛　　博

平成11年度
文化財保護課職員

文化財保護課長	石川　克博
文化財保護課長補佐	高橋　賢靖
埋蔵文化財係長	井野　誠一
副主幹	唐澤　保之
主　査	丸山　正家
〃	山口　宗男
〃	羽鳥　三郎
〃	大澤　雅之
〃	横山　浩之
〃	真塩　欣一
主　任	梅山　雅夫
〃	古屋　秀登
〃	林　　信也
〃	平野　岳志
〃	齊木　一敏
〃	飯田　祐二
〃	高橋　　亨
〃	佐藤　則和
主　事	吉田　聖二
〃	小峰　　篤
〃	高山　　剛（群馬県へ派遣）
〃	眞塩　明男
発掘・文化財担当（嘱託）	井上　唯雄
嘱託員	吉沢　　貴
〃	平石　和明

平成11年度文化財調査報告書第30集

平成12年９月22日印刷
平成12年９月28日発行
発　行　前橋市教育委員会文化財保護課
前橋市上泉町664－４
印　刷　上毎印刷工業株式会社

表紙　国指定史跡　後二子古墳